

## &lt; 論 説 &gt;

## 現代中国における高学歴若年層の就転職事情(3)

——就転職機会の獲得にともなう高学歴若年層の地域間移動(2)——

柳 澤 和 也

## 目 次

はじめに

第1章 上海市・南京市・蘇州市・寧波市の特徴

第2章 上海市・南京市・蘇州市・寧波市の人材交流会求職者の出生地別属性比較

おわりに

## はじめに

本稿は、前稿(1)<sup>1</sup>(2)<sup>2</sup>に続いて、中国の地方政府<sup>3</sup>人事廳／局傘下の公的機関である「人材市場」(「人材市場」は、高学歴者を対象にする公共職業安定所に相当し、英語名称は、Talent Market / Human Resources Marketである。「人材市場」は、以下、鉤括弧を省略する。)<sup>4,5</sup>や民間企業によって中国各都市で定期的に主(供)催されている「人材交流会」(「人材交流会」は、一般に合同面接会と訳される。「人材交流会」は、以下、鉤括弧を省略する。)で実施した独自のアンケート調査の結果を分析するものである。

前稿(1)は、22機関が主(共)催した延べ24の人材交流会で実施したアンケート調査の結果の概略を報告したものであり、前稿(2)は、北京市、上海市、広州市、鄭州市、合肥市、南昌市で開催された人材交流会で実施したアンケート調査の結果を利用して、就転職機会の獲得にともなう三大経済圏の中心都市(環渤海経済圏の北京市、長江デルタ経済圏の上海市、珠江デルタ経済圏の広州市)へ地域間移動を行う高学歴若年層の属性を抽出したものであった。

本稿は、これらにたいして、図1に示したように、長江デルタ経済圏<sup>6</sup>を構成する上海市、南京市、蘇州市、寧波市で開催された人材交流会で実施したアンケート調査の結果を利用して<sup>7</sup>、就転職機会の獲得にともなう長江デルタ経済圏へ地域間移動を行う高学歴若年層の属性をとくに抽出するものである。筆者たちは、上海市では同一機関が共催する人材交流会でアンケート調査を2回実施したが、前稿(2)と同様に、本稿でも第2回のアンケート調査の結果を分析する。上海市の第2回のアンケート調査は、記入漏れが少ないという点で精度が高い。筆者は、この作業を通じて、前稿(2)からの目的である中国全土に共通すると思われる高学歴若年層の労働供給の特徴により一層迫りうると考えている。

本稿の関心は、当然、長江デルタ経済圏を構成する諸都市出身の高学歴若年層による長江デル

図1 長江デルタ経済圏

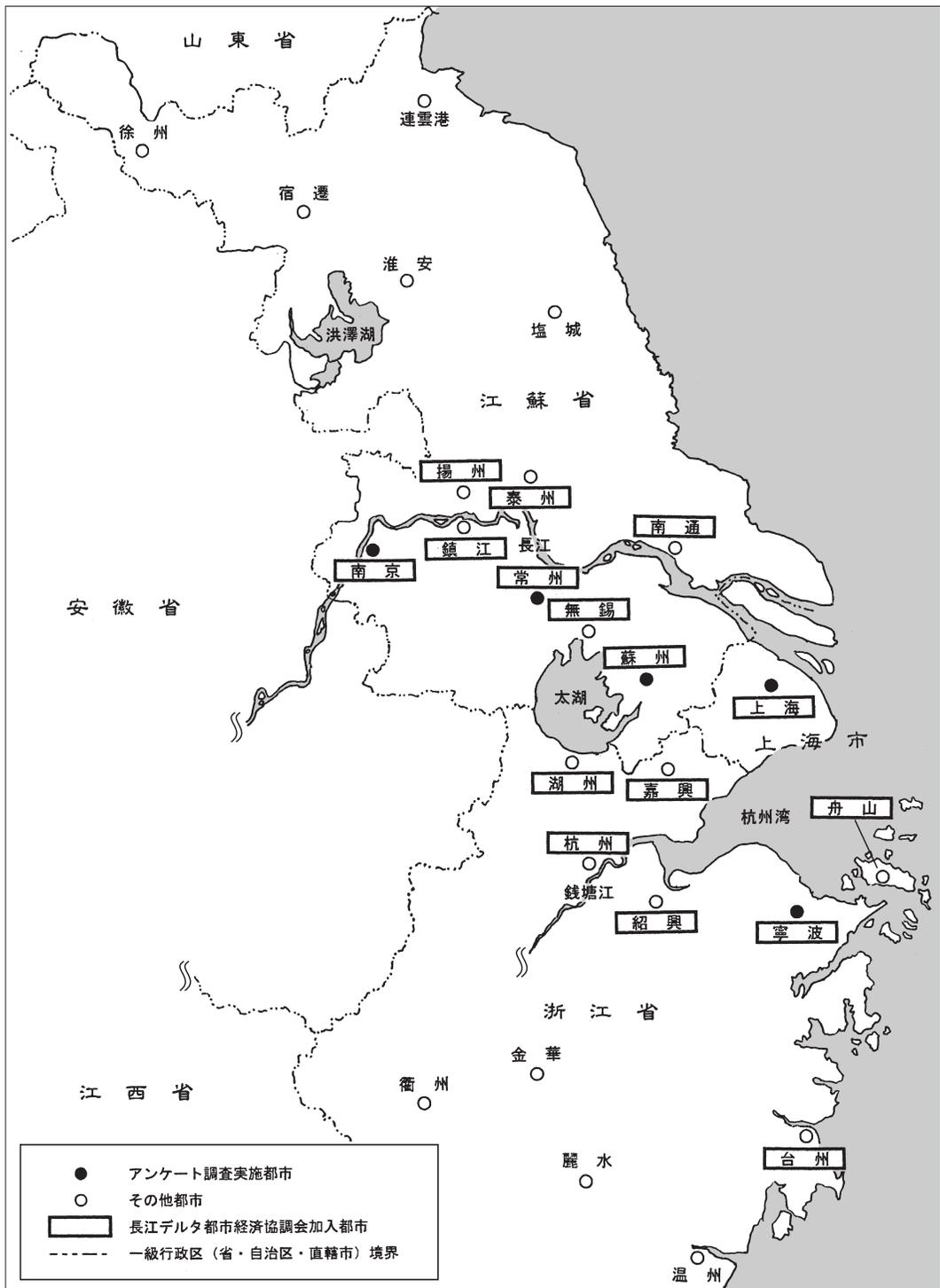
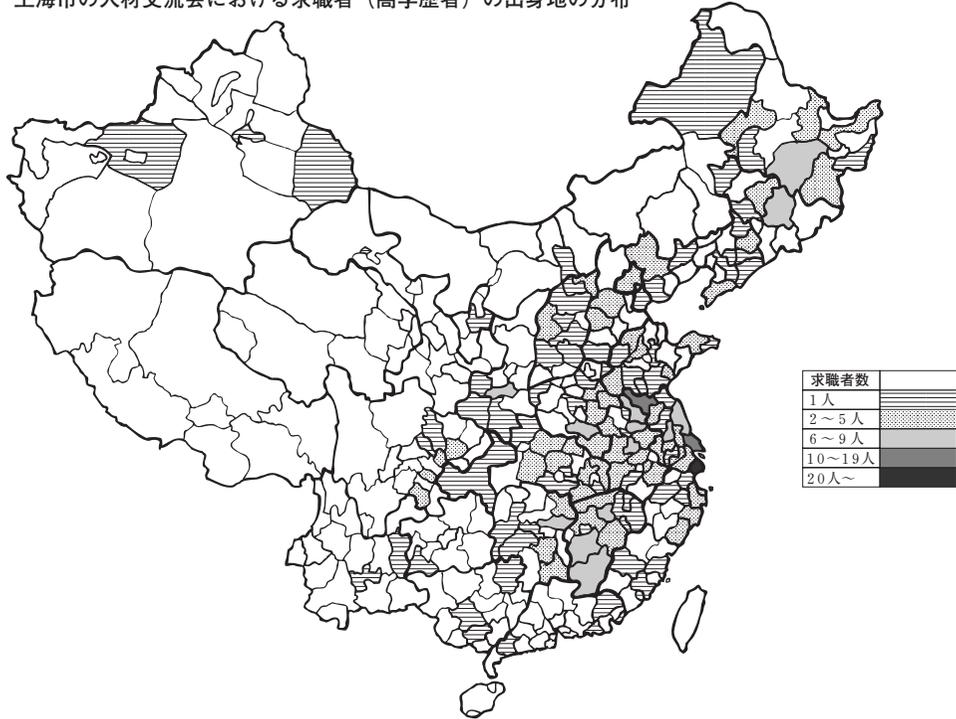


図2 上海市の人材交流会における求職者（高学歴者）の出身地の分布



注 本図は、上海市の人材交流会を訪れた求職者のうち高学歴者の出身地の分布を示しており、非高学歴者を含む全求職者の出身地の分布を示した前稿<sup>2)</sup>の図2とは微妙に異なる。

図3 南京市の人材交流会における求職者（高学歴者）の出身地の分布

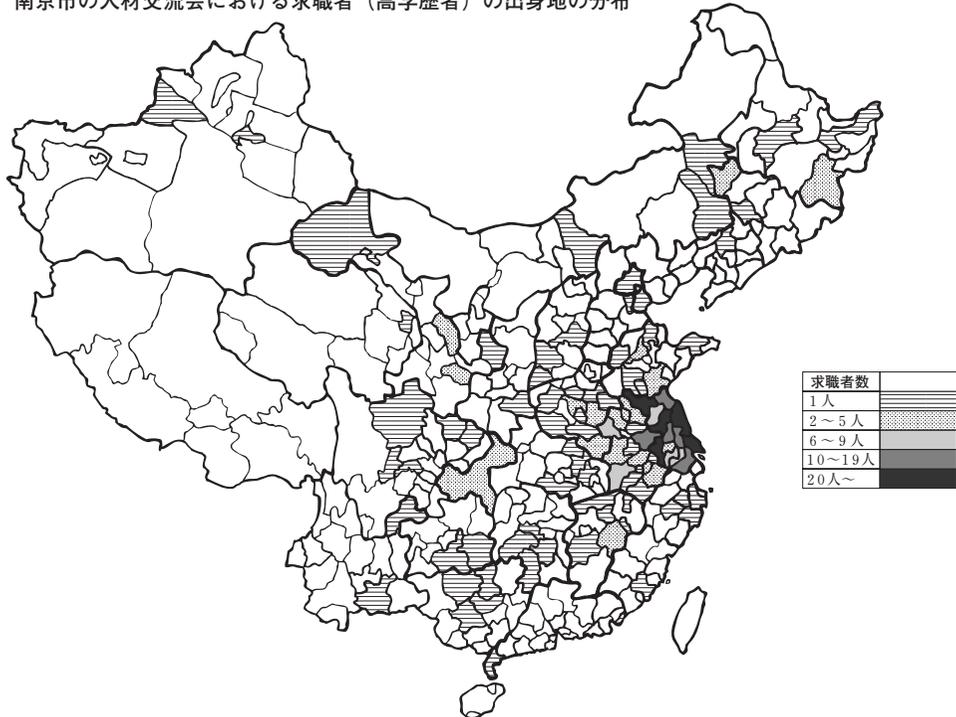


図 4 蘇州市の人材交流会における求職者（高学歴者）の出身地の分布

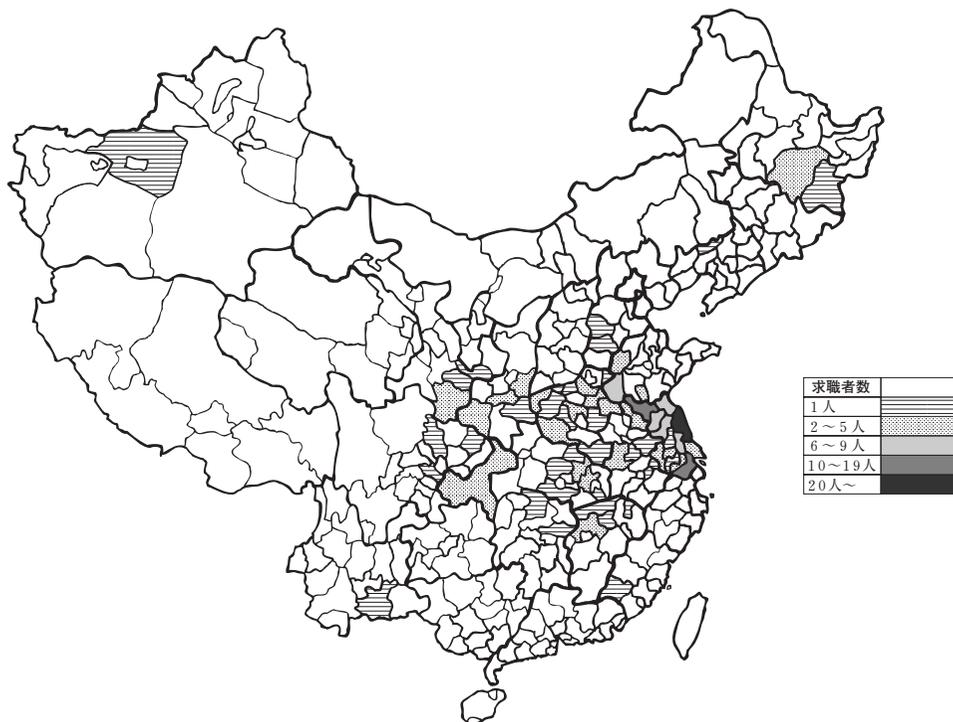
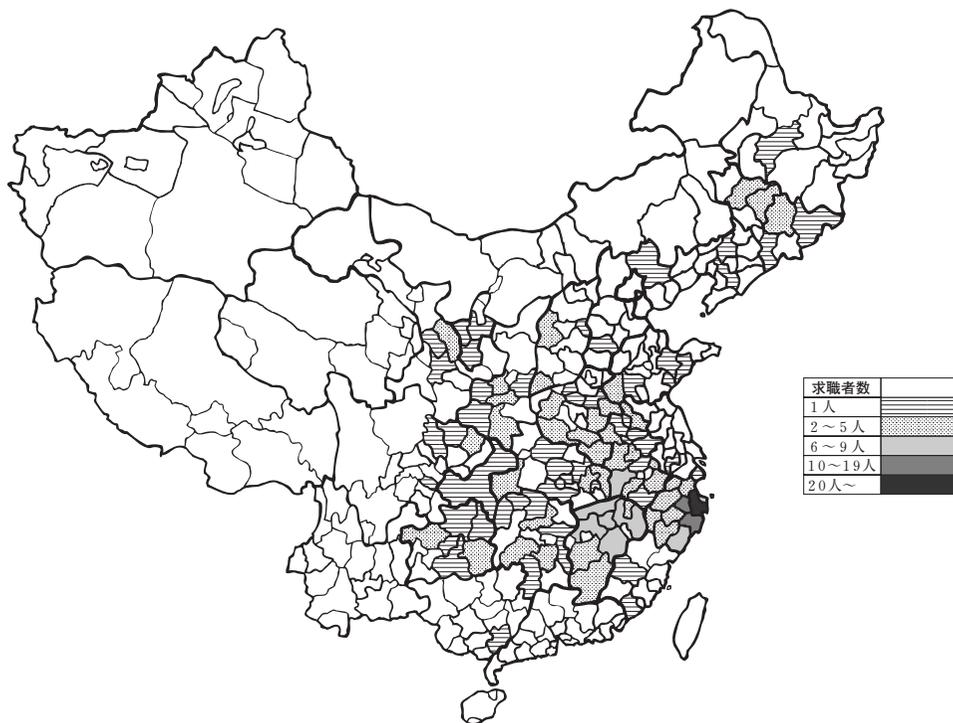


図 5 寧波市の人材交流会における求職者（高学歴者）の出身地の分布



タ経済圏内における地域間移動の実態にも向けられる。長江デルタ経済圏を構成する諸都市は、周知のように、中国最大の経済都市である上海市に牽引されるかたちで経済開発が連鎖反動的に進展している。それゆえ、上海市、南京市、蘇州市、寧波市は、経済発展水準あるいは社会発展水準がそれぞれ異なり、人材交流会を訪れる求職者の属性も相当異なる。図2・3・4・5は、4市の人材交流会を訪れた求職者の出生地の分布を示している。

上述の目的を追究する本稿の課題は、大別して2つある。ひとつは、4市の統計局が刊行している市販統計を利用して4市の特徴をまとめ、4市に就転職機会を求める高学歴若年層の動機を探ることである。もうひとつは、4市の特徴をふまえたうえで、独自調査の結果に基づき、4市の人材交流会を訪れた求職者をそれぞれ市内出身者と市外出身者とに区分して就転職機会の獲得にともなう出生地である二（一）級行政区に止まる者と出生地でない二（一）級行政区へ地域間移動を行う者の属性を4市別、あるいは4市間で比較することである<sup>8</sup>。

さて、以下でいう◎◎市の人材交流会とは、筆者と共同研究者である鄭曉穎がアンケート調査を実施した人材市場と民間企業の当該人材交流会を指す。高学歴若年層とは、高等教育機関である「大学専科」（「大学専科」は、2年制・3年制大学であり、一般に「大専」と呼ばれる。「大学専科」は、以下、鉤括弧を省略する。）<sup>9</sup>卒業、「大学本科」（「大学本科」は、4年制大学である。「大学本科」は、以下、鉤括弧を省略する。）卒業、「研究生院碩士・博士課程」（「研究生院碩士・博士課程」は、大学院博士前後期課程である。「研究生院碩士・博士課程」は、以下、大学院博士前後期課程と表記する。）修了のいずれかの学歴を有する者あるいは有することになる者で35歳未満の者を指している。ただし、本稿は、就転職機会の獲得にともなう高学歴若年層の地域間移動の動向に迫る必要上、アンケート回答者に含まれる高学歴非若年層、すなわち35歳以上の者<sup>10</sup>をも比較対象として含めた分析を行う。他方、本稿は、前稿(2)とは異なり、非高学歴層と学歴不明者を分析対象から除外する。この理由は、前稿(1)でも部分的に報告したように、求職者に占める非高学歴者比率が4市間で大きく異なるためである。求職者に占める非高学歴者比率は、上海市6.9%、南京市7.4%、蘇州市61.8%、寧波市28.2%であり、かれらを除外しないと、蘇州市と寧波市の人材交流会では就転職機会の獲得にともなう非高学歴層の行動特性を強く反映した結果がでてしまうおそれがある。

本稿も、前稿(1)(2)と同様に、筆者が単独で執筆したものであり、本稿の内容とありうる誤謬に関する責任は、すべて筆者に帰する。

## 第1章 上海市・南京市・蘇州市・寧波市の特徴

最初に、4市の統計局が刊行している市販統計を利用して4市の特徴をまとめ、4市に就転職機会を求める高学歴若年層の動機を探っていききたい。

### 1. 人口構成、GDP構成、対内直接投資構成、就業構成

表1は、行政面積、戸籍人口、人口密度を示している。

表 1 行政面積と戸籍人口 (2007 年)

	行政面積 (平方キロ)	戸籍人口 (万人)	人口密度 (人/平方キロ)
上海市	6,341	1,379	2,175
南京市	6,582	617	938
蘇州市	8,488	624	736
寧波市	9,816	565	575
全 国	9,600,000	132,129	138

注 戸籍人口は、年末時点の数値である。

資料 上海市統計局『上海統計年鑑』(2008 年版) 国家統計出版社, 2008 年, 3, 32 頁。

南京市統計局『南京統計年鑑』(2008 年版) 南京出版社, 2008 年, 6 頁。

蘇州市統計局『蘇州統計年鑑』(2008 年版) 中国統計出版社, 2008 年, 29, 66~67 頁。

寧波市統計局・国家統計局寧波調査隊『寧波統計年鑑』(2008 年版) 中国統計出版社, 2008 年, 19, 47 頁。

中華人民共和国国家統計局『中国統計年鑑』(2008 年版) 中国統計出版社, 2008 年, 87, 381 頁。

上海市は、行政面積は最も小さいが、戸籍人口は他 3 市の 2.2~2.4 倍になり、人口都市化が著しく進展している。また、上海市は、直轄市であり、一級行政区に相当し、省・自治区と同等の行政権限を有する。南京市と蘇州市は、二級行政区に相当し、ともに江蘇省に位置するが、南京市は、江蘇省の省都であり、政治行政の中心である。寧波市は、南京市および蘇州市と同様に二級行政区に相当するが、江蘇省ではなく浙江省に位置する。4 市政府が有する行政権限の相違は、人口密度に端的に示されている。

表 2 は、GDP の産業別構成 (2007 年)、表 3 は、対内直接投資額の出資形態別構成と産業別構

表 2 GDP の産業別構成 (2007 年)

	総 額 (億元)	第 1 次産業		第 2 次産業		第 3 次産業	
			構成比		構成比		構成比
上海市	12,189	102	0.8%	5,679	46.6%	6,409	52.6%
南京市	3,284	86	2.6%	1,607	48.9%	1,590	48.4%
蘇州市	5,701	99	1.7%	3,632	63.7%	1,970	34.6%
寧波市	3,435	151	4.4%	1,899	55.3%	1,385	40.3%
全 国	249,530	28,095	11.3%	121,381	48.6%	100,054	40.1%
	戸籍人口 1 人あたり (元)	第 1 次産業		第 2 次産業		第 3 次産業	
			構成比		構成比		構成比
上海市	88,398	739	0.8%	41,183	46.6%	46,477	52.6%
南京市	53,206	1,401	2.6%	26,042	48.9%	25,764	48.4%
蘇州市	91,297	1,582	1.7%	58,165	63.7%	31,549	34.6%
寧波市	60,844	2,680	4.4%	33,639	55.3%	24,526	40.3%
全 国	18,885	2,126	11.3%	9,187	48.6%	7,572	40.1%

資料 上海市統計局『上海統計年鑑』(2008 年版) 国家統計出版社, 2008 年, 32, 58 頁。

南京市統計局『南京統計年鑑』(2008 年版) 南京出版社, 2008 年, 6, 9 頁。

蘇州市統計局『蘇州統計年鑑』(2008 年版) 中国統計出版社, 2008 年, 53, 66~67 頁。

寧波市統計局・国家統計局寧波調査隊『寧波統計年鑑』(2008 年版) 中国統計出版社, 2008 年, 47, 79 頁。

中華人民共和国国家統計局『中国統計年鑑』(2008 年版) 中国統計出版社, 2008 年, 37, 87 頁。

表3 対内直接投資額の出資形態別構成と産業別構成(実行ベース・2007年)

	総額 (万ドル)	合 弁		合 作		全額外資		全額外資株式制	
			構成比		構成比		構成比		構成比
上海市	791,954	171,200	21.6%	15,600	2.0%	604,300	76.3%		
南京市	206,100	n. a.		n. a.		n. a.		n. a.	
蘇州市	716,471	85,539	11.9%	8,534	1.2%	620,941	86.7%	1,436	0.2%
寧波市	250,518	68,268	27.3%	2,962	1.2%	179,288	71.6%		
全 国	7,476,789	1,559,600	20.9%	141,600	1.9%	5,726,400	76.6%	49,200	0.7%

	総額 (万ドル)	第1次産業		第2次産業		第3次産業	
			構成比		構成比		構成比
上海市	791,954	800	0.1%	259,700	32.8%	531,500	67.1%
南京市	206,100	936	0.5%	109,460	53.1%	95,704	46.4%
蘇州市	716,471	n. a.		n. a.		n. a.	
寧波市	250,518	136	0.1%	205,843	82.2%	44,539	17.8%
全 国	7,476,789	92,407	1.2%	4,286,105	57.3%	3,098,277	41.4%

資料 上海市統計局『上海統計年鑑』(2008年版) 国家統計出版社, 2008年, 121頁。

南京市統計局『南京統計年鑑』(2008年版) 南京出版社, 2008年, 277頁。

蘇州市統計局『蘇州統計年鑑』(2008年版) 中国統計出版社, 2008年, 312頁。

寧波市統計局・国家統計局寧波調査隊『寧波統計年鑑』(2008年版) 中国統計出版社, 2008年, 365~367頁。

中華人民共和国国家統計局『中国統計年鑑』(2008年版) 中国統計出版社, 2008年, 733頁。

国家統計局城市社会経済調査司『中国城市統計年鑑』(2008年版) 中国統計出版社, 233~240頁。

成(実行ベース・2007年)を示している。

4市とも、GDPに占める第1次産業比率が全国平均よりも大幅に低く、第2次産業比率と第3次産業比率のいずれかが全国平均よりも高くなる。また、上海市は、GDP総額では他3市を寄せつけないが、戸籍人口1人あたりGDPでは蘇州市の後塵を拝する。後者の結果は、蘇州市が中国有数の工業都市であるゆえに生じている。

蘇州市は、大雑把にいえば、市街区と2つの開発区にゾーニング(zoning)されている。筆者たちは、開発区のひとつである蘇州工業園区でアンケート調査を実施したが、この蘇州工業園区ともうひとつの開発区である蘇州高新技术開発区は、いずれも国家級開発区として海外から多額の直接投資を受け入れている。その結果、蘇州市の対内直接投資額(2007年)は、上海市のそれにかかなり接近している。実行ベースでみた蘇州市の対内直接投資額の産業別構成は、資料の制約があって不明であるが、契約ベースでみたそれは、第1次産業7049万ドル(構成比0.4%)、第2次産業140億0996万ドル(構成比76.3%)、第3次産業42億8304万ドル(構成比23.3%)であり<sup>1)</sup>、実行ベースの産業別構成比でも第2次産業が大宗を占めるであろうことが十分に予想される。

寧波市も、金額では蘇州市には到底及ばないにせよ、第2次産業を中心にして直接投資を相当規模受け入れており、その結果、GDP総額と戸籍人口1人あたりGDPのいずれでも江蘇省の省都である南京市を上回っている。

戸籍人口1人あたりGDPは、上海市と蘇州市の住民、南京市と寧波市の住民とがそれぞれほぼ同等の経済的環境のもとにあることを示している。

表4は、就業の産業別構成(2007年)を示している。

表 4 就業の産業別構成 (2007 年末)

	合 計 (万人)	第 1 次産業		第 2 次産業		第 3 次産業	
			構成比		構成比		構成比
上海市	909.08	53.71	5.9%	342.75	37.7%	512.62	56.4%
南京市	367.81	45.15	12.3%	153.25	41.7%	169.41	46.1%
蘇州市	483.40	33.64	7.0%	307.23	63.6%	142.53	29.5%
寧波市	437.80	67.50	15.4%	228.80	52.3%	141.50	32.3%
全 国	76,990	31,444	40.8%	20,629	26.8%	24,917	32.4%

資料 上海市統計局『上海統計年鑑』(2008 年版) 国家統計出版社, 2008 年, 45 頁。

南京市統計局『南京統計年鑑』(2008 年版) 南京出版社, 2008 年, 33 頁。

蘇州市統計局『蘇州統計年鑑』(2008 年版) 中国統計出版社, 2008 年, 72 頁。

寧波市統計局・国家統計局寧波調査隊『寧波統計年鑑』(2008 年版) 中国統計出版社, 2008 年, 62~63 頁。

中華人民共和国国家統計局『中国統計年鑑』(2008 年版) 中国統計出版社, 2008 年, 112 頁。

第 1 次産業就業比率は、戸籍人口 1 人あたり GDP がほぼ等しい上海市と蘇州市、南京市と寧波市とでそれぞれ似通っている。しかし、第 2 次産業就業比率と第 3 次産業就業比率は、上海市と蘇州市、南京市と寧波市とではそれぞれ大きく異なる。

上海市は、第 3 次産業就業者比率が 56.4% になり、第 3 次産業中心の就業構成となっているが、蘇州市は、第 2 次産業就業者比率が 63.6% になり、第 2 次産業中心の就業構成となっている。同様に、南京市は、第 3 次産業就業者比率が 46.1% になり、第 3 次産業中心の就業構成となっているが、寧波市は、第 2 次産業就業者比率が 52.3% になり、第 2 次産業中心の就業構成となっている。4 市の就業構成は、直前に言及した対内直接投資額の産業別構成と強い相関を示しているといえよう。上海市と南京市は、蘇州市と寧波市に比較して高学歴若年層に多様な業種と職種で就業機会を与えていると推察され、高学歴若年層が就転職活動にさいして行う就転職先の決定に強い影響力を及ぼしていると考えられる。

## 2. 生活水準

表 5 は、生活水準を示す経済指標と社会指標 (2007 年) をまとめたものである。4 市は、いずれの指標でも全国平均を上回るが、4 市間の格差も、相当程度認められる。

### (1) 経済的側面

最初に、平均月給額、市街区域居住者平均可処分所得、市街区域居住者平均消費支出、市街区域居住者平均貯蓄に基づいて生活水準の経済的側面を確認しよう。

上海市の平均月給額は、4109 元であり、他 3 市の 3000 元未満を大きく上回る。全国平均 2078 元を 100 とみなす指数に 4 市の平均月給額を置き換えると、上海市 198, 南京市 144, 蘇州市 126, 寧波市 132 となり、最大の上海市は、最小の蘇州市の 1.57 倍となる。

もっとも、市街区域居住者平均可処分所得は、平均月給額ほどの格差はみられない。上海市の市街区域居住者平均可処分所得は、2 万 3623 元であり、他 3 市の 2 万~2 万 2000 元程度とさほど変わらない。同様に全国平均 1 万 3786 元を 100 とみなす指数に 4 市の市街区域居住者平均可

表5 生活水準(2007年)

## (1) 経済指標

	平均月給額 (元)	市街区域居住者 平均可処分所得 A (元)	市街区域居住者 平均消費支出 B (元)	市街区域居住者 平均貯蓄 A - B (元)
上海市	4,109	23,623	17,255	6,368
南京市	2,992	20,317	13,278	7,039
蘇州市	2,617	21,260	13,959	7,301
寧波市	2,744	22,307	13,921	8,386
全 国	2,078	13,786	9,997	3,788

## (2) 社会指標

	1万人あたり 病床数 (床)	1万人あたり 医師数 (人)	1万人あたり 公共バス運営台数 (台)
上海市	69.6	35.4	12.3
南京市	42.4	25.4	9.1
蘇州市	50.1	24.9	4.0
寧波市	28.8	27.3	n. a.
全 国	28.0	15.2	n. a.

注 1. いずれの指標も、戸籍人口ベースの数値である。

2. 1万人あたり病床数と1万人あたり医師数は、年末時点の数値である。

3. 1万人あたり公共バス運営台数は、トロリーバスを含んだ数値である。

資料 上海市統計局『上海統計年鑑』(2008年版) 国家統計出版社, 2008年, 32, 58, 163, 166~167, 194~197, 201, 455~456頁。

南京市統計局『南京統計年鑑』(2008年版) 南京出版社, 2008年, 6, 9, 45, 342, 349, 364頁。

蘇州市統計局『蘇州統計年鑑』(2008年版) 中国統計出版社, 2008年, 53, 66~67, 86, 444, 520~521, 551頁。

寧波市統計局・国家統計局寧波調査隊『寧波統計年鑑』(2008年版) 中国統計出版社, 2008年, 47, 79, 131, 436頁。

中華人民共和国国家統計局『中国統計年鑑』(2008年版) 中国統計出版社, 2008年, 37, 87, 148, 320, 860~861頁。

国家統計局城市社会経済調査司『中国城市統計年鑑』(2008年版) 中国統計出版社, 145~152, 265~272頁。

処分所得を置き換えると、上海市171、南京市147、蘇州市154、寧波市162となり、最大の上海市は、最小の南京市の1.16倍でしかない。格差の縮小は、4市間の直接税・社会保険料負担の相違を反映したものであり、上海市の直接税・社会保険料負担は、蘇州市と寧波市のそれに比較して重く、蘇州市と寧波市の直接税・社会保険料負担は、上海市のそれに比較して軽いといえる。

市街区域居住者平均消費支出の格差は、上海市を別とすれば、市街区域居住者平均可処分所得の格差よりもさらに縮まる。南京市、蘇州市、寧波市の市街区域居住者平均消費支出は、いずれも1万3000元台である。やはり全国平均9997元を100とみなす指数に4市の市街区域居住者平均消費支出を置き換えると、上海市173、南京市133、蘇州市140、寧波市139となり、南京市、蘇州市、寧波市の消費水準は、ほぼ等しくなる。消費量から捉えた南京市、蘇州市、寧波市の生活水準は、物価水準の多少の相違を考慮したとしても、大差ないと判断しうる。上海市の消費水準は、予期されたように突出している。

市街区域居住者平均貯蓄は、市街区域居住者平均可処分所得から市街区域居住者平均消費支出

を差し引いて求められる。やはり全国平均 3788 元を 100 とみなす指数に 4 市の市街区域居住者平均消費支出を置き換えると、上海市 168、南京市 186、蘇州市 193、寧波市 221 となる。興味深い事実は、上海市の市街区域居住者平均貯蓄が他 3 市のそれを下回ることである。上海市は、市街区域居住者平均可処分所得で最高額を示すが、住居費<sup>12</sup>などの生活固定費が重くのしかかるために市街区域居住者平均消費支出も最高額を示し、その結果、市街区域居住者平均貯蓄では最低額になる。対照的に、寧波市は、市街区域居住者平均貯蓄では最高額を示し、南京市や蘇州市にはほぼ等しい金額を消費しても貯蓄できる金額が多いことがわかる。寧波市と上海市の市街区域居住者平均貯蓄の差額は、1 年あたり 2000 元を超えており、寧波市は、高学歴若年層が将来に備えて貯蓄に大きな意義をみいだすのであれば、上海市よりも相応しい就転職先といえる。

## (2) 社会的側面

続いて、1 万人あたり病床数、1 万人あたり医師数、1 万人あたり公共バス運営台数に基づいて生活水準の社会的側面を確認しよう<sup>13</sup>。1 万人あたり病床数と 1 万人あたり医師数は、高齢層の生活水準を考えるうえ重要な指標であることはもちろんであるが、出産・育児を担う若年層の生活水準を考えるうえでも軽視されるべき指標ではない。

上海市の 1 万人あたり病床数は、69.6 床になり、他 3 市のそれを大きく上回る。全国平均 28.0 床を 100 とみなす指数に 4 市の 1 万人あたり病床数を置き換えると、上海市 249、南京市 151、蘇州市 179、寧波市 103 となり、最大の上海市は、最小の寧波市の 2.42 倍となる。上海市は、直接税・社会保険料負担の大きさに相応した病床を整えているといえよう。他方、寧波市は、全国平均とほぼ変わらず、上海市はともかく、南京市と蘇州市にも遅れをとっている。

上海市の 1 万人あたり医師数は、35.4 人にもなり、やはり他 3 市のそれを大きく上回る。もっとも、全国平均 15.2 人を 100 とみなす指数に 4 市の 1 万人あたり医師数を置き換えると、上海市 233、南京市 167、蘇州市 164、寧波市 180 となり、1 万人あたり医師数の格差は、1 万人あたり病床数のそれに比較すれば小さく、最大の上海市は、最小の蘇州市の 1.42 倍でしかない。また、寧波市は、1 万人あたり病床数では南京市と蘇州市を下回ったが、1 万人あたり医師数では上回る。寧波市は、人口規模に比較して医療機関数が少ないか、あるいは医療機関の平均規模が小さいと考えられる。

上海市の 1 万人あたり公共バス運営台数は、12.3 台になり、南京市と蘇州市のそれを大きく上回る。寧波市の 1 万人あたり公共バス運営台数は、資料の制約のために不明であるが、筆者のアンケート調査時点での実感によると、蘇州市のそれに近いと思われる。公共バスは、所得と資産のいずれにも不足している若年層が日常の移動で最も頻繁に利用する公共交通手段であり、これらは、1 万人あたり公共バス運営台数が増えれば増えるほど都市生活の利便性を実感するに相違ない。加えて、上海市は、2010 年の国際博覧会（上海万博）の開催を控えて、地下鉄網の拡充をはじめとする交通インフラの整備をすすめてきており、公共交通の利便性が著しく高い。

### 3. 高等教育

表6は、高等教育に関する指標(2007年)をまとめたものである。なお、本稿で紹介する教育に関する指標は、統計資料では「普通高等学校」(regular institutions of higher education)と一般に表記・分類される公立普通高等教育機関のものに限定されており、研究機関、公立成人高等教育機関<sup>14</sup>、私立高等教育機関に関わるものを含まない。研究機関、公立成人高等教育機関、私立高等教育機関の統計資料は、一部都市を除き、市販統計には記載されていない。

南京市の戸籍人口100万人あたり学校数は、6.6校であり、蘇州市の2.3倍、寧波市の2.9倍になる。しかし、高等教育機関は、大都市である省都、自治区首府、直轄市には数多く立地しており<sup>15,16,17</sup>、驚くには値しない。南京市の高等教育機関は、もちろん、在学学生数も突出している。南京市の戸籍人口100万人あたり在学学生数は、10万9844人であり、蘇州市の4.5倍、寧波市の4.9倍になる。しかし、この10万9844人も、省都(とりわけ沿海省の省都)の戸籍人口100万人あたり在学学生数としては平均的な規模である<sup>18,19,20</sup>。

他方、上海市の戸籍人口100万人あたり学校数は、4.4校であり、同様に直轄市である天津市

表6 高等教育(2007年)

(1) 総数

	学校数(校)	在学学生数(人)	新入生数(人)	卒業生数(人)
上海市	60	484,873	144,600	118,500
南京市	41	677,924	177,416	150,700
蘇州市	18	152,459	47,440	30,335
寧波市	13	126,094	39,849	32,751
全 国	1,908	18,849,000	5,659,000	4,478,000

(2) 戸籍人口100万人あたり学級数、在学学生数、新入生数、卒業生数

	学校数(校)	在学学生数(人)	新入生数(人)	卒業生数(人)
上海市	4.4	35,165	10,487	8,594
南京市	6.6	109,844	28,747	24,418
蘇州市	2.9	24,416	7,597	4,858
寧波市	2.3	22,335	7,058	5,801
全 国	1.4	14,266	4,283	3,389

(3) 1校あたり在学学生数・新入生数・卒業生数

	在学学生数(人)	新入生数(人)	卒業生数(人)
上海市	8,081	2,410	1,975
南京市	16,535	4,327	3,676
蘇州市	8,470	2,636	1,685
寧波市	9,700	3,065	2,519
全 国	9,879	2,966	2,347

注 本表の数値は、「普通高等学校」(regular institutions of higher education)と一般に表記・分類される公立普通高等教育機関のものにかぎり、研究機関、公立成人高等教育機関、私立高等教育機関のものを含まない。

資料 上海市統計局『上海統計年鑑』(2008年版)国家統計出版社,2008年,32,430~431頁。

南京市統計局『南京統計年鑑』(2008年版)南京出版社,2008年,6,317~319頁。

蘇州市統計局『蘇州統計年鑑』(2008年版)中国統計出版社,2008年,66~67,498~500,502頁。

寧波市統計局・国家統計局寧波調査隊『寧波統計年鑑』(2008年版)中国統計出版社,2008年,47,420~425頁。

中華人民共和国国家統計局『中国統計年鑑』(2008年版)中国統計出版社,2008年,87,777,779~780頁。

のその4.7校にほぼ等しい<sup>21</sup>。北京市と重慶市も、直轄市であるが、北京市は、政治行政の中心である首都であるゆえに直轄市であり、重慶市は、経済開発が遅れている西部開発の拠点となるゆえに直轄市になった。したがって、北京市の戸籍人口100万人あたり学校数6.8校と重慶市の戸籍人口100万人あたり学校数1.2校は、いずれも特殊事例であると考えられる<sup>22,23</sup>。しかし、上海市は、都市の規模をGDPで計った場合、高等教育機関数が極端に少ないことは疑えない。上海市のGDP(2007年)は、表2に示したように、1兆2189億元であり、北京市、天津市、重慶市のGDP(同年)は、それぞれ9353億元、5050億元、4123億元であった<sup>24,25,26</sup>。上海市は、この視点に立つと、経済発展の速度に高等教育機関の設立が追いついていないようにみえる。また、上海市の戸籍人口100万人あたり在学学生数は、3万5165人であり、天津市のその3万8696人にほぼ等しい<sup>27</sup>。ちなみに、北京市と重慶市の戸籍人口100万人あたり在学学生数は、それぞれ6万2251人と1万3544人である<sup>28,29</sup>。戸籍人口100万人あたり在学学生数の相違は、当然、戸籍人口100万人あたり学校数の相違を反映せざるをえない。

蘇州市と寧波市の高等教育の状況は、きわめて似通っている。2市は、GDPの産業別構成、就業の産業別構成、市街区域居住者平均可処分所得、市街区域居住者平均消費支出が比較的近いこともあり、同程度の高等教育機会を若年層に提供している都市であるといえよう。

#### 4. 就転職先としての4市の特徴

4市は、以上で確認した人口構成、GDP構成、対内直接投資額構成、就業構成、生活水準、高等教育の諸指標からみて以下の特徴を有している。

上海市と南京市は、サービス業が発展しており、高学歴若年層に業種と職種で多様な就業機会を提供している。とりわけ上海市は、人口とGDPの大きさから判断して、他3市では採算ベースに乗らないニッチ産業の存立が許されそうである。また、上海市は、直接税・社会保険料負担は相対的に重いが、医療機関や公共交通がそれに見合うだけ充実している。上海市は、商業施設も数多く立地し、生活の利便性に富み、一大消費地としても高学歴若年層を惹きつける圧倒的な魅力を有する。

蘇州市と寧波市は、工業都市として位置づけられ、理工系学科・研究科出身者に豊富な就業機会を提供している。

また、南京市、蘇州市、寧波市は、可処分所得と消費支出からみると同程度の生活水準が保障されている都市とみなされ、高学歴若年層を惹きつける条件では甲乙つけがたい。

次章では、こうした4市の特徴をふまえたうえで、4市の人材交流会を訪れた求職者の属性を分析していくことにしたい。

## 第2章 上海市・南京市・蘇州市・寧波市の人材交流会求職者の出生地別属性比較

次いで、前章で分析した4市の特徴をふまえたうえで、独自調査の結果に基づき、4市の人材

交流会を訪れた求職者をそれぞれ市内出身者と市外出身者とに区分して就転職機会の獲得にともなう出生地である二（一）級行政区に止まる者と出生地でない二（一）級行政区へ地域間移動を行う者の属性を4市別、あるいは4市間で比較していきたい。

## 1. 男女構成

表7は、4市の人材交流会を訪れた求職者の男女構成を示している。

上海市、南京市、寧波市の人材交流会は、市内出身者の男女構成が第5回人口センサス（2000年）から推計される高学歴若年層の男女構成である男性54.4%、女性45.6%に近い<sup>30</sup>。この結果は、かれらの地元にたいする強い定着志向を示しているように考えられる。

高学歴若年層の流出が著しい都市は、前稿(1)(2)で示したように、市内出身者に占める男性比率が低下し、女性比率が上昇する。しかし、3市の人材交流会を訪れた市内出身者の男女構成は、第5回人口センサスから推計される高学歴若年層の男女構成に近く、とりわけ南京市出身者と寧波市出身者は、一般に、上海市とのあいだに存在する経済格差や社会格差を意識して上海市に就転職機会を求めているようにはみえない。南京市出身者と寧波市出身者は、表8に示したように、上海市の人材交流会を訪れた江蘇省または浙江省出身者のなかでは明らかに少数派であり、上海市に就転職機会を求めている絶対数も、江蘇省または浙江省出身者のなかでは少数であ

表7 男女構成

		全回答者	
		男性	女性
上海市		479	176
		100.0%	36.7%
	市内	108	50
		100.0%	46.3%
市外		371	126
		100.0%	34.0%
南京市		451	207
		100.0%	45.9%
	市内	93	42
		100.0%	45.2%
市外		358	165
		100.0%	46.1%
蘇州市		187	68
		100.0%	36.4%
	市内	14	5
		100.0%	35.7%
市外		173	63
		100.0%	36.4%
寧波市		333	117
		100.0%	35.1%
	市内	76	36
		100.0%	47.4%
市外		257	81
		100.0%	31.5%

表8 上海市の人材交流会における江蘇省出身者と浙江省出身者の出生地

## (1) 江蘇省出身者

標本 番号	出生地行政区	
	番号	名称
374	10001	南京市玄武区
36	10005	南京市鼓楼区
84	10008	南京市六合区
258	10011	南京市江寧区
513	10011	南京市江寧区
403	10014	徐州市雲龍区
49	10019	徐州市邳州市
296	10019	徐州市邳州市
261	10020	徐州市新沂市
142	10021	徐州市銅山県
282	10022	徐州市睢寧県
175	10023	徐州市沛県
15	10023	徐州市沛県
484	10023	徐州市沛県
12	10023	徐州市沛県
207	10023	徐州市沛県
343	10024	徐州市豊県
166	10028	連雲港市贛榆県
4	10034	宿遷市沭陽県
40	10035	宿遷市泗陽県
135	10036	宿遷市泗洪県
26	—	宿遷市
211	10039	淮安市楚州区
201	10045	塩城市亭湖区
205	10045	塩城市亭湖区
132	10045	塩城市亭湖区
515	10047	塩城市東台市
162	10049	塩城市射陽県
376	10049	塩城市射陽県
209	10050	塩城市阜寧県
443	10050	塩城市阜寧県
47	10053	塩城市建湖県
488	10054	揚州市維揚区
431	10057	揚州市儀征市
25	10058	揚州市江都市
477	10059	揚州市高郵市
470	10059	揚州市高郵市
17	10060	揚州市宝応県
229	10060	揚州市宝応県
280	10060	揚州市宝応県
487	10061	泰州市海陵区
394	10063	泰州市靖江市
281	10064	泰州市泰興市
141	10064	泰州市泰興市
402	10066	泰州市興化市

## (2) 浙江省出身者

標本 番号	出生地行政区	
	番号	名称
111	11005	杭州市西湖区
14	11025	嘉興市海塩県
490	11028	舟山市岱山県
493	11028	舟山市岱山県
316	11035	寧波市鄞州区
247	11039	寧波市寧海県
63	11045	紹興市紹興県
54	11065	台州市臨海市
458	11070	台州市玉環県
414	—	台州市
469	11072	温州市龍湾区
45	11075	温州市樂清市
93	11075	温州市樂清市
421	11081	温州市蒼南県

- 注 1. 出生地行政区の番号は、中華人民共和國民政部編『中華人民共和國行政区划簡冊』(2007年版)に掲載されている三級行政区一覧を利用して筆者がアンケート用紙の整理にあたって三級行政区のすべてに便宜的に付したものである。
2. 市は、中国の行政区画では直轄市(一級行政区)、地級市(二級行政区)、県級市(三級行政区)の3つのレベルがある。  
【例】徐州市邳州市……徐州市(二級行政区)、邳州市(三級行政区)
3. 標本番号26と414の三級行政区は、不明である。

ると推察される。

もちろん、中国における高学歴若年層の地域間移動は、戸籍制度という中国特殊の制度的抑制要因の存在を考慮しなければならない。とはいえ、南京市出身者と寧波市出身者の多くは、一定の生活水準が保障されている2市を離れてまでより経済発展や社会発展がすすんでいる上海市に就転職機会を求めているようである。中国全土で展開されている高学歴若年層の地域間移動は、長江デルタ経済圏を構成する2市の事例から判断すると、プル要因よりもプッシュ要因に強く支配されていると考えられよう。実際、上海市の人材交流会を訪れる江蘇省出身の求職者は、南京市よりも生活水準が劣ると判断される徐州市、塩城市、南通市などの出身者が多くなっている<sup>31</sup>。

もっとも、上海市、南京市、寧波市の人材交流会は、市内出身者の男女構成が第5回人口センサスから推計される高学歴若年層の男女構成に近似している点では共通するが、市外出身者の男女構成は大きく異なる。南京市の人材交流会を訪れた市外出身者の男女構成は、市内出身者と同様に、第5回人口センサスから推計される高学歴若年層の男女構成にほぼ等しいが、上海市と寧波市の人材交流会を訪れた市外出身者の男女構成は、男性比率が60%台後半、女性比率が30%台前半である。この相違は、求職者の出生地の地理的広がりに関係している。

南京市の人材交流会を訪れた求職者に占める市外出身者比率は、79.4%であり、上海市の人材交流会のその77.5%、寧波市の人材交流会のその77.2%をも上回るが、非江蘇省出身者比率は、32.6%にすぎない。南京市の人材交流会は、市外出身者といっても南京市出身者を除く江蘇省出身者が全求職者の46.8%を占める。対照的に、寧波市の人材交流会を訪れた求職者に占める非浙江省出身者比率は、59.8%であり、寧波市出身者を除く浙江省出身者は、17.4%にすぎない。市外出身者は、前稿(1)で指摘したように、市内出身者に比較して男性比率が高くなり、地域間移動は、前稿(2)で指摘したように、移動距離を増すにつれて男性比率が高まる。南京市の人材交流会と上海市および寧波市の人材交流会とのあいだにみられる市外出身者の男女構成の相違は、こうした求職者の出生地の地理的広がりに関わるものである。

残る蘇州市の人材交流会は、市内出身者と市外出身者の男女構成がほぼ等しく、男性が60%台前半、女性が30%台後半である。蘇州市の人材交流会を訪れた市外出身者の男女構成は、これらの出生地の地域的広がり考慮すると十分納得できる。しかし、市内出身者の男女構成は、前章で紹介したように、外資企業の工業団地を中心につくられている蘇州工業園区特有の条件に強く影響を受けていると考えられる。蘇州工業園区は、文科系学科・研究科出身者の求人乏しく、文科系学科・研究科出身者の多くは、蘇州工業園区を就転職先としてみなしていない。理工系学科・研究科出身者は、中国でも女性比率が文科系学科・研究科に比較して低い。蘇州市の人材交流会は、その結果、市内出身者の女性比率が低くなるのである。

## 2. 平均年齢

表9は、4市の人材交流会を訪れた求職者の平均年齢を示している。

上海市、南京市、蘇州市の人材交流会を訪れた市外出身者の平均年齢は、前稿(2)で分析したように、市内出身者のそれに比較して低い。この理由は、市外出身者に占める非若年者比率が市内出身者のそれに比較して低いためであった。市外出身者は、市内出身者に比較して非若年者比率が低く、その分だけ平均年齢が低く算出される。

寧波市の人材交流会は、例外的に、市外出身者の平均年齢が市内出身者のそれに比較して高い。女性の平均年齢は、他3市の人材交流会と同様に、市外出身者の平均年齢が市内出身者のそれに比較して低いが、男性の平均年齢は、市外出身者の平均年齢が市内出身者のそれに比較して高く、市外出身者全体の平均年齢を市内出身者全体のそれより押し上げている。筆者は、この現象が生じた理由をむしろ寧波市の人材交流会を訪れた市内出身の男性の平均年齢の低さに求めたい。寧波市の人材交流会は、市内出身の非若年層がほとんどいない。寧波市の人材交流会を訪れた市内出身の非若年層は、3人、市内出身者の3.9%にすぎず、最年長者でも42歳である<sup>32</sup>。この理由の一端は、前章で確認したように、寧波市が工業都市であり、若年層にたいする求人比率が高いことに求められよう。寧波市出身の高学歴非若年層は、寧波市の人材交流会の利用頻度が

表9 平均年齢

		全回答者	
		男性	女性
上海市		26.0	24.6
		[478]	[176]
市内		26.3	23.7
		[108]	[50]
市外		25.9	25.0
		[370]	[126]
南京市		24.4	23.4
		[451]	[207]
市内		25.4	24.4
		[93]	[42]
市外		24.2	23.1
		[358]	[165]
蘇州市		24.4	24.1
		[187]	[68]
市内		25.5	26.4
		[14]	[5]
市外		24.3	23.9
		[173]	[63]
寧波市		24.7	23.5
		[333]	[117]
市内		24.5	24.0
		[76]	[36]
市外		24.8	23.3
		[257]	[81]

注 平均額欄の括弧内の数字は、平均年齢算出の対象となった回答者数である。

低いようである。

また、上海市の人材交流会は、市外出身者の平均年齢が25.9歳になり、他3市の人材交流会を訪れた市外出身者の平均年齢に比較して高い。この理由は、前稿(2)で示したように、一定の職歴を有する在職者が多いためである。加えて、上海市に転職機会を求める市外出身者の平均年齢は、学歴構成を分析するさいに指摘するように、他3市よりも高学歴化の度合いが高まることによって他3市に転職機会を求める市外出身者のそれに比較して高くならざるをえない<sup>33</sup>。

ただし、南京市出身者と寧波市出身者の多くは、男女構成の分析にあたって指摘したように、一定の職歴を積んでも上海市での転職を強く望んでいないことを付言しておきたい。

### 3. 年齢構成

表10は、4市の人材交流会を訪れた求職者の年齢構成を示している。

上海市の人材交流会は、市外出身者に占める20歳代後半者比率が市内出身者のそれに比較して明らかに高い(多数派が20歳代前半者であることは、市内出身者と同様である)。この理由は、平均年齢の分析にさいして指摘した事柄とも重なるが、在職者比率が高まるうえに市外出身者全体の高学歴化の度合いが高まるためである。この点は、前稿(2)で分析した北京市の人材交流会も同様であった。

対照的に、蘇州市の人材交流会は、市外出身者に占める20歳代後半者比率が市内出身者のそれに比較して大幅に低く、筆者たちがアンケート調査を実施した他21市の人材交流会に同様の例をみない。蘇州市の人材交流会は、前章で述べた理由から、一般の市街区で実施されている人材交流会とは求職者の属性が著しく相違している可能性を否認しない<sup>34</sup>。筆者が蘇州市の人材交流会の結果に基づいて推測できる唯一の事柄は、非高学歴者にたいする求人が圧倒的である蘇州工業園区では、市内出身者の就転職は中間管理層の職位に就く場合にほぼ限定されるために20歳代後半者が必然的に多くなる、ということである。

### 4. 学歴構成

表11は、4市の人材交流会を訪れた求職者の学歴構成を示している。

学歴構成は、一口に高学歴で括れないほど4市間の相違が著しい。最高学歴となる大学院修了者(大学院修了者は、博士前期課程修了者と博士後期課程修了者の両方を指し、いずれも大学院修了見込者を含む。以下、同様である。)は、上海市14.2%、南京市3.1%、蘇州市1.0%、寧波市0.9%、それに次ぐ高学歴となる大学本科卒者(大学本科卒者は、大学本科卒業見込者を含む。以下、同様である。)は、上海市51.4%、南京市45.7%、蘇州市20.9%、寧波市33.9%である。上海市の人材交流会は、求職者の高学歴化の度合いが突出している。

4市の大学院修了者比率と大学本科卒者比率の合計をそれぞれ市内出身者と市外出身者とに区分してみると、興味深い事実が浮かびあがる。市内出身者に占める大学院修了者比率と大学本科



表 11 学歴構成

	全回答者				全回答者						
	大学専科		大学院 博士前期		大学院 博士後期		大学院 博士前期		大学院 博士後期		
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
上海市	南京市										
	市内	479	100.0%	165	34.4%	246	51.4%	66	13.8%	2	0.4%
	市内	108	100.0%	47	43.5%	51	47.2%	9	8.3%	1	0.9%
	市内	371	100.0%	118	31.8%	195	52.6%	57	15.4%	1	0.3%
	市内	303	100.0%	95	31.4%	162	53.5%	44	14.5%	2	0.7%
	市内	58	100.0%	23	39.7%	27	46.6%	7	12.1%	1	1.7%
	市内	245	100.0%	72	29.4%	135	55.1%	37	15.1%	1	0.4%
	市内	176	100.0%	70	39.8%	84	47.7%	22	12.5%	0	0.0%
	市内	50	100.0%	24	48.0%	24	48.0%	2	4.0%	0	0.0%
	市内	126	100.0%	46	36.5%	60	47.6%	20	15.9%	0	0.0%
蘇州市	宁波市										
	市内	187	100.0%	146	78.1%	39	20.9%	1	0.5%	1	0.5%
	市内	14	100.0%	9	64.3%	5	35.7%	0	0.0%	0	0.0%
	市内	173	100.0%	137	79.2%	34	19.7%	1	0.6%	1	0.6%
	市内	119	100.0%	89	74.8%	28	23.5%	1	0.8%	1	0.8%
	市内	9	100.0%	5	55.6%	4	44.4%	0	0.0%	0	0.0%
	市内	110	100.0%	84	76.4%	24	21.8%	1	0.9%	1	0.9%
	市内	68	100.0%	57	83.8%	11	16.2%	0	0.0%	0	0.0%
	市内	5	100.0%	4	80.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
	市内	63	100.0%	53	84.1%	10	15.9%	0	0.0%	0	0.0%

卒者比率の合計は、上海市 56.5%、南京市 47.3%、蘇州市 35.7%、寧波市 39.5%、市外出身者のそれは、上海市 68.2%、南京市 49.2%、蘇州市 20.8%、寧波市 33.5%であった。上海市の人材交流会は、市外出身者の高学歴化の度合いが市内出身者のそれより高く、市外出身者の大学院修了者比率と大学本科卒者比率の合計は、市内出身者のそれを 11.7 ポイント上回る。南京市の人材交流会は、市外出身者の高学歴化の度合いが市内出身者のそれにほぼ等しい。蘇州市と寧波市の人材交流会は、市外出身者の高学歴化の度合いが市内出身者のそれより低く、市外出身者の大学院修了者比率と大学本科卒者比率の合計は、市内出身者のそれをそれぞれ 14.9 ポイントと 6.0 ポイント下回る。

産業構造が最も高度化しかつ労働供給量が最も多いと推測される上海市に就転職機会を求める市外出身者は、市内出身者よりも高学歴を要求されるのだろう。興味深い点は、大学本科卒者と大学院修了者の一部の月給額が市外に止まっている大学本科卒者と大学院修了者を引き寄せる呼び水となり、上海市に就転職機会を求める高学歴若年層の高学歴化の度合いをより一層上昇させる要因となっていると推察されることである。

他方、蘇州市と寧波市に就転職機会を求める市外出身者は、上海市では就転職機会の獲得で不利な立場におかれる大学専科卒者が市内出身者よりも比率を増している。

## 5. 戸籍構成

表 12 は、4 市の人材交流会を訪れた求職者の戸籍構成を示している。

4 市の人材交流会のいずれも、市外出身者に占める農業戸籍保有者比率が市内出身者のそれに比較して高い。この理由は、至って明快である。4 市のいずれも、程度の差はあれ、全国平均よりも都市人口比率が高く農業戸籍保有者比率が低い。4 市の人材交流会を訪れる市内出身者は、当然、非農業戸籍保有者が圧倒的になる。対照的に、4 市の人材交流会を訪れる市外出身者は、依然として農村人口比率が高止まりしている行政区の出身者をも含む。その結果、4 市の人材交流会のいずれも、市外出身者に占める農業戸籍保有者比率が市内出身者のそれより高くなる傾向をえないのである。

興味深い点は、寧波市の人材交流会を例外とすると、市内出身者に占める非農業戸籍保有者比率が高い都市であればあるほど市外出身者に占める非農業戸籍保有者比率が高くなる傾向がみられることである。市内出身者に占める非農業戸籍保有者比率は、上海市の人材交流会 99.1%、南京市の人材交流会 92.5%、蘇州市の人材交流会 85.7% であるが、市外出身者に占める非農業戸籍保有者比率は、上海市の人材交流会 85.7%、南京市の人材交流会 80.2%、蘇州市の人材交流会 59.5% となっている。4 市の人材交流会を訪れた市外出身者間の戸籍構成のばらつきは、大都市での就転職機会の獲得には大学本科卒業や大学院博士前後期課程修了という学歴がきわめて重要な要件であること、そして最終学歴の決定には出生地が深く関わることを示している。

表 12 戸籍構成

	全回答者				全回答者				
		住民 / 非農業	農業			住民 / 非農業	農業		
上海市	479			南京市	451				
	100.0%				100.0%				
	市内	425			市内	373			
		88.7%				82.7%			
	市外	46			市外	70			
		9.6%				15.5%			
	男性	108			男性	93			
		100.0%				100.0%			
		市内	107			市内	86		
			99.1%				92.5%		
		市外	1			市外	64		
			0.9%				17.9%		
女性	371		女性	244					
	100.0%			100.0%					
	市内	318		市内	205				
		85.7%			84.0%				
	市外	45		市外	33				
		12.1%			13.5%				
男性	303		男性	244					
	100.0%			100.0%					
	市内	265		市内	51				
		87.5%			48				
	市外	34		市外	2				
		11.2%			3.9%				
女性	176		女性	207					
	100.0%			100.0%					
	市内	50		市内	42				
		90.9%			38				
	市外	0		市外	4				
		0.0%			9.5%				
蘇州市	187			寧波市	333				
	100.0%				100.0%				
	市内	115			市内	258			
		61.5%				77.5%			
	市外	67			市外	70			
		35.8%				21.0%			
	男性	14			男性	76			
		100.0%				100.0%			
		市内	12			市内	57		
			85.7%				75.0%		
		市外	2			市外	16		
			14.3%				21.1%		
女性	173		女性	257					
	100.0%			100.0%					
	市内	103		市内	216				
		59.5%			77.3%				
	市外	65		市外	46				
		37.6%			21.3%				
男性	119		男性	216					
	100.0%			100.0%					
	市内	66		市内	40				
		55.5%			30				
	市外	49		市外	8				
		41.2%			20.0%				
女性	9		女性	176					
	100.0%			100.0%					
	市内	9		市内	137				
		100.0%			77.8%				
	市外	0		市外	38				
		0.0%			21.6%				
男性	110		男性	117					
	100.0%			100.0%					
	市内	57		市内	91				
		51.8%			77.8%				
	市外	49		市外	24				
		44.5%			20.5%				
女性	68		女性	117					
	100.0%			100.0%					
	市内	49		市内	36				
		72.1%			27				
	市外	18		市外	8				
		26.5%			22.2%				
男性	5		男性	81					
	100.0%			100.0%					
	市内	3		市内	64				
		60.0%			79.0%				
	市外	2		市外	16				
		40.0%			19.8%				
女性	63		女性	117					
	100.0%			100.0%					
	市内	46		市内	36				
		73.0%			27				
	市外	16		市外	8				
		25.4%			19.8%				

## 6. 人材交流会情報の入手経路

表 13 は、4 市の人材交流会を訪れた求職者の人材交流会情報の入手経路を示している。

上海市と寧波市の人材交流会は、市外出身者に占める URL 利用者比率が市内出身者のそれに比較して高い。蘇州市の人材交流会は、市内出身者に占める URL 利用者比率が 100.0% であるために市外出身者に占める URL 利用者比率が市内出身者のそれに比較して低くなるが、他 3 市の人材交流会を訪れた市外出身者との比較では URL 利用者比率が最も高い。中国全土から多く

表13 人材交流会情報の入手経路【複数回答】

	全回答者			全回答者				
	新聞	URL	知人	新聞	URL	知人		
上海市	479	285	48	56	134	285		
	100.0%	28.0%	10.0%	11.7%	59.5%	10.0%		
	108	35	12	24	108	35		
	100.0%	32.4%	11.1%	22.2%	32.4%	11.1%		
	371	99	36	32	371	99		
	100.0%	26.7%	9.7%	8.6%	26.7%	9.7%		
	303	88	183	37	303	88		
	100.0%	29.0%	60.4%	12.2%	29.0%	60.4%		
	58	20	28	6	58	20		
	100.0%	34.5%	48.3%	22.4%	34.5%	48.3%		
245	68	155	24	245	68			
100.0%	27.8%	63.3%	9.8%	27.8%	63.3%			
176	46	102	19	176	46			
100.0%	26.1%	58.0%	10.8%	26.1%	58.0%			
50	15	22	11	50	15			
100.0%	30.0%	44.0%	22.0%	30.0%	44.0%			
126	31	80	8	126	31			
100.0%	24.6%	63.5%	6.3%	24.6%	63.5%			
	新聞	URL	知人	その他	新聞	URL	知人	その他
蘇州市	187	21	162	16	187	21	162	16
	100.0%	11.2%	86.6%	8.6%	11.2%	86.6%	26.7%	8.6%
	14	2	14	2	14	2	14	2
	100.0%	14.3%	100.0%	14.3%	14.3%	100.0%	14.3%	14.3%
	173	19	148	14	173	19	148	14
	100.0%	11.0%	85.5%	8.1%	11.0%	85.5%	27.7%	8.1%
	119	15	104	10	119	15	104	10
	100.0%	12.6%	87.4%	8.4%	12.6%	87.4%	26.9%	8.4%
	9	1	9	0	9	1	9	0
	100.0%	11.1%	100.0%	0.0%	11.1%	100.0%	0.0%	11.1%
110	14	95	9	110	14	95	9	
100.0%	12.7%	86.4%	8.2%	12.7%	86.4%	29.1%	8.2%	
68	6	58	18	68	6	58	18	
100.0%	8.8%	85.3%	26.5%	8.8%	85.3%	26.5%	26.5%	
5	1	5	2	5	1	5	2	
100.0%	20.0%	100.0%	40.0%	20.0%	20.0%	100.0%	40.0%	
63	5	53	16	63	5	53	16	
100.0%	7.9%	84.1%	25.4%	7.9%	84.1%	25.4%	25.4%	
	新聞	URL	知人	その他	新聞	URL	知人	その他
南京市	451	166	184	73	451	166	184	73
	100.0%	36.8%	40.8%	16.2%	100.0%	36.8%	40.8%	16.2%
	93	38	39	14	93	38	39	14
	100.0%	40.9%	41.9%	15.1%	40.9%	41.9%	15.1%	15.1%
	358	128	145	59	358	128	145	59
	100.0%	35.8%	40.5%	16.5%	35.8%	40.5%	16.5%	16.5%
	244	88	95	31	244	88	95	31
	100.0%	36.1%	38.9%	12.7%	36.1%	38.9%	12.7%	12.7%
	51	24	21	7	51	24	21	7
	100.0%	47.1%	41.2%	13.7%	47.1%	41.2%	13.7%	13.7%
193	64	74	24	193	64	74	24	
100.0%	33.2%	38.3%	12.4%	33.2%	38.3%	12.4%	12.4%	
207	78	89	42	207	78	89	42	
100.0%	37.7%	43.0%	20.3%	37.7%	43.0%	20.3%	20.3%	
42	14	18	7	42	14	18	7	
100.0%	33.3%	42.9%	16.7%	33.3%	42.9%	16.7%	16.7%	
165	64	71	35	165	64	71	35	
100.0%	38.8%	43.0%	21.2%	38.8%	43.0%	21.2%	21.2%	
	新聞	URL	知人	その他	新聞	URL	知人	その他
寧波市	333	114	168	62	333	114	168	62
	100.0%	34.2%	50.5%	18.6%	100.0%	34.2%	50.5%	18.6%
	76	26	33	12	76	26	33	12
	100.0%	34.2%	43.4%	15.8%	100.0%	34.2%	43.4%	15.8%
	257	88	135	50	257	88	135	50
	100.0%	34.2%	52.5%	19.5%	100.0%	34.2%	52.5%	19.5%
	216	73	116	40	216	73	116	40
	100.0%	33.8%	53.7%	18.5%	100.0%	33.8%	53.7%	18.5%
	40	12	20	4	40	12	20	4
	100.0%	30.0%	50.0%	10.0%	100.0%	30.0%	50.0%	10.0%
176	61	96	36	176	61	96	36	
100.0%	34.7%	54.5%	20.5%	100.0%	34.7%	54.5%	20.5%	
117	41	52	22	117	41	52	22	
100.0%	35.0%	44.4%	18.8%	100.0%	35.0%	44.4%	18.8%	
36	14	13	8	36	14	13	8	
100.0%	38.9%	36.1%	22.2%	100.0%	38.9%	36.1%	22.2%	
81	27	39	14	81	27	39	14	
100.0%	33.3%	48.1%	17.3%	100.0%	33.3%	48.1%	17.3%	

の求職者を集めている上海市、蘇州市、寧波市の人材交流会は、必然的に市外出身者に占める URL 利用者比率が高くなるのである。

対照的に、南京市の人材交流会は、市外出身者に占める URL 利用者比率が市内出身者のそれと大差ない。新聞利用者比率や知人利用者比率も、市外出身者と市内出身者とのあいだで有意な差異がみられない。南京市の人材交流会を訪れる高学歴若年層は、先述したように、江蘇省出身者が大半を占めるが、筆者は、人材交流会情報の入手経路の構成が市内出身者と市外出身者とどこまで近似しているとはまったく予想していなかった。南京市の人材交流会は、後述するように、人材交流会開催都市における高等教育機関の在学経験保有者比率が他 3 市より大幅に高く、就転職機会の獲得に関する市内出身者と市外出身者との情報の非対称性がきわめて小さいと考えられる。

また、蘇州市の人材交流会は、市外出身者に占める知人利用者比率が市内出身者のそれに比較して高い。筆者は、さきの学歴構成の分析結果に鑑みて、市外出身の大学専科卒者比率が高い人材交流会では市外出身者に占める知人利用者比率が高くなると推測する。筆者は、高学歴化の度合いが高まるにつれて就転職機会の獲得にあたっての対人依存度が低下していくように思えてならない。高学歴化の度合いの上昇は、知識の広がりや年齢に応じたキャリア意識の明確化を求職者にもたらし、就転職機会の獲得にあたっての対人依存度を低下させるのではないだろうか。

## 7. 人材交流会開催都市における高等教育機関の在学経験

表 14 は、4 市の人材交流会を訪れた求職者の当該市での高等教育機関の在学経験を示している。

4 市の人材交流会のいずれも、市外出身者に占める人材交流会開催都市における高等教育機関在学経験保有者比率が市内出身者のそれに比較して低く、縁故関係をもたない市外出身者を数多く集めている。とりわけ上海市、蘇州市、寧波市の人材交流会は、市外出身者に占める人材交流会開催都市における高等教育機関在学経験保有者比率が 20% を切り、縁故関係をもたない市外出身者が労働供給の主たる担い手になっている現状を示している。

なお、上海市の人材交流会は、上海市の高等教育機関数が戸籍人口比でみて少ないことによって、市外出身者に占める人材交流会開催都市における高等教育機関在学経験保有者比率が低くなっている一面もある。

南京市の人材交流会は、市外出身者に占める人材交流会開催都市における高等教育機関在学経験保有者比率が 50% を超えている。この事実は、南京市所在の高等教育機関への進学が契機になって南京市に就転職機会を求める結果になった市外出身者が存在する一方、あらかじめ南京市に将来の就転職機会を求めるために進学先を南京市所在の高等教育機関に決定した江蘇省出身者も数多く存在している可能性を窺わせる。

表 14 人材交流会開催都市における高等教育機関の在学経験

		全回答者					全回答者						
		有	無	有			無						
上海市			479	122	345	南京市			451	247	192		
			100.0%	25.5%	72.0%				100.0%	54.8%	42.6%		
	市内		108	65	38		市内		93	67	23		
			100.0%	60.2%	35.2%				100.0%	72.0%	24.7%		
	市外		371	57	307		市外		358	180	169		
			100.0%	15.4%	82.7%				100.0%	50.3%	47.2%		
	男性			303	69		226	男性			244	129	109
				100.0%	22.8%		74.6%				100.0%	52.9%	44.7%
		市内		58	31		24		市内		51	37	13
				100.0%	53.4%		41.4%				100.0%	72.5%	25.5%
市外			245	38	202	市外			193	92	96		
			100.0%	15.5%	82.4%				100.0%	47.7%	49.7%		
女性			176	53	119	女性			207	118	83		
			100.0%	30.1%	67.6%				100.0%	57.0%	40.1%		
	市内		50	34	14		市内		42	30	10		
			100.0%	68.0%	28.0%				100.0%	71.4%	23.8%		
	市外		126	19	105		市外		165	88	73		
			100.0%	15.1%	83.3%				100.0%	53.3%	44.2%		
		全回答者					全回答者						
		有	無				有	無					
蘇州市			187	25	161	寧波市			333	64	265		
			100.0%	13.4%	86.1%				100.0%	19.2%	79.6%		
	市内		14	6	8		市内		76	24	50		
			100.0%	42.9%	57.1%				100.0%	31.6%	65.8%		
	市外		173	19	153		市外		257	40	215		
			100.0%	11.0%	88.4%				100.0%	15.6%	83.7%		
	男性			119	19		100	男性			216	32	182
				100.0%	16.0%		84.0%				100.0%	14.8%	84.3%
		市内		9	5		4		市内		40	13	26
				100.0%	55.6%		44.4%				100.0%	32.5%	65.0%
市外			110	14	96	市外			176	19	156		
			100.0%	12.7%	87.3%				100.0%	10.8%	88.6%		
女性			68	6	61	女性			117	32	83		
			100.0%	8.8%	89.7%				100.0%	27.4%	70.9%		
	市内		5	1	4		市内		36	11	24		
			100.0%	20.0%	80.0%				100.0%	30.6%	66.7%		
	市外		63	5	57		市外		81	21	59		
			100.0%	7.9%	90.5%				100.0%	25.9%	72.8%		

## 8. 在学／在職構成

表 15 は、4 市の人材交流会を訪れた求職者の在学／在職構成を示している。

上海市と南京市の人材交流会は、市外出身者と市内出身者のいずれも他 2 市に比較して在職者比率が高く、人材交流会は、在職者に転職機会を提供する役割を強く帯びている。

蘇州市の人材交流会も、市内出身者に限定すれば、上海市と南京市の人材交流会と同様に、在職者に転職機会を提供する役割を担うが、市外出身者に限定すれば、失業者に再就職機会を提供する役割を担っている。

寧波市の人材交流会は、市外出身者と市内出身者のいずれも他 2 市に比較して失業者比率が高

表 15 在学/在職構成

	上海市				南京市				蘇州市			
	新卒見込者	新卒者	在職者	失業者	新卒見込者	新卒者	在職者	失業者	新卒見込者	新卒者	在職者	失業者
上海市	479	132	59	183	100	451	108	84	147	108	451	108
	100.0%	27.6%	12.3%	38.2%	20.9%	100.0%	23.9%	18.6%	32.6%	23.9%	100.0%	23.9%
	108	34	16	40	17	93	14	13	38	28	93	14
	100.0%	31.5%	14.8%	37.0%	15.7%	100.0%	15.1%	14.0%	40.9%	30.1%	100.0%	15.1%
	371	98	43	143	83	358	94	71	109	80	358	94
	100.0%	26.4%	11.6%	38.5%	22.4%	100.0%	26.3%	19.8%	30.4%	22.3%	100.0%	26.3%
	303	64	29	131	77	244	38	49	93	63	244	38
	100.0%	21.1%	9.6%	43.2%	25.4%	100.0%	15.6%	20.1%	38.1%	25.8%	100.0%	15.6%
	58	11	6	30	10	51	5	7	23	16	51	5
	100.0%	19.0%	10.3%	51.7%	17.2%	100.0%	9.8%	13.7%	45.1%	31.4%	100.0%	9.8%
	245	53	23	101	67	193	33	42	70	47	193	33
	100.0%	21.6%	9.4%	41.2%	27.3%	100.0%	17.1%	21.8%	36.3%	24.4%	100.0%	17.1%
176	68	30	52	23	207	70	35	54	45	207	70	
100.0%	38.6%	17.0%	29.5%	13.1%	100.0%	33.8%	16.9%	26.1%	21.7%	100.0%	33.8%	
50	23	10	10	7	42	9	6	15	12	42	9	
100.0%	46.0%	20.0%	20.0%	14.0%	100.0%	21.4%	14.3%	35.7%	28.6%	100.0%	21.4%	
126	45	20	42	16	165	61	29	39	33	165	61	
100.0%	35.7%	15.9%	33.3%	12.7%	100.0%	37.0%	17.6%	23.6%	20.0%	100.0%	37.0%	
蘇州市	187	27	9	58	92	333	30	71	97	132	333	30
	100.0%	14.4%	4.8%	31.0%	49.2%	100.0%	9.0%	21.3%	29.1%	39.6%	100.0%	9.0%
	14	3	0	6	5	76	8	17	21	30	76	8
	100.0%	21.4%	0.0%	42.9%	35.7%	100.0%	10.5%	22.4%	27.6%	39.5%	100.0%	10.5%
	173	24	9	52	87	257	22	54	76	102	257	22
	100.0%	13.9%	5.2%	30.1%	50.3%	100.0%	8.6%	21.0%	29.6%	39.7%	100.0%	8.6%
	119	19	5	34	60	216	13	48	69	84	216	13
	100.0%	16.0%	4.2%	28.6%	50.4%	100.0%	6.0%	22.2%	31.9%	38.9%	100.0%	6.0%
	9	2	0	4	3	40	3	10	13	14	40	3
	100.0%	22.2%	0.0%	44.4%	33.3%	100.0%	7.5%	25.0%	32.5%	35.0%	100.0%	7.5%
	110	17	5	30	57	176	10	38	56	70	176	10
	100.0%	15.5%	4.5%	27.3%	51.8%	100.0%	5.7%	21.6%	31.8%	39.8%	100.0%	5.7%
68	8	4	24	32	117	17	23	28	48	117	17	
100.0%	11.8%	5.9%	35.3%	47.1%	100.0%	14.5%	19.7%	23.9%	41.0%	100.0%	14.5%	
5	1	0	2	2	36	5	7	8	16	36	5	
100.0%	20.0%	0.0%	40.0%	40.0%	100.0%	13.9%	19.4%	22.2%	44.4%	100.0%	13.9%	
63	7	4	22	30	81	12	16	20	32	81	12	
100.0%	11.1%	6.3%	34.9%	47.6%	100.0%	14.8%	19.8%	24.7%	39.5%	100.0%	14.8%	

注 1. 新卒者とは、在学期間に就職先をえられなかった求職者、すなわち職歴をもたない失業者を意味する。  
 2. 上海市は、定年退職後に再就職先を探している市内出身の60歳の男性と市外出身の64歳の男性の2人を除いている。

く、人材交流会は、失業者に再就職機会を提供する役割を強く帯びている。

アンケート調査実施日は、前稿(1)で示したように、上海市2007年12月8日、南京市2007年11月10日、蘇州市2007年6月9日、寧波市2007年9月22日である。アンケート調査実施日の相違は、新卒見込者が就職活動を本格的に行う時期にあたるか否かで在職者比率や失業者比率を増減させる。しかし、新卒見込者の増減は、日常的に4市の人材交流会に集まる求職者の主流が在職者と失業者のいずれになるかという現実にはほとんど影響しない。筆者は、上海市と南京市の人材交流会には市外から在職者が数多く集まり、蘇州市と寧波市の人材交流会には市外から失業者が数多く集まる、と認識する。市外出身者は、上海市と南京市の人材交流会では雇用条件の改善をめざし、蘇州市と寧波市の人材交流会では喪失した就業機会の確保をめざしているといえよう。

## 9. 人材交流会の利用回数

表16は、4市の人材交流会を訪れた求職者の人材交流会の利用回数を示している。

筆者は、高学歴若年層の流入が著しい都市の人材交流会は、人材市場が主(共)催する人材交流会の初回利用者比率が高くなる傾向があることを前稿(2)で指摘した。本稿でも引き続き分析の対象としている上海市の人材交流会は、まさにその典型であり、求職者の新陳代謝が著しい。しかし、南京市、蘇州市、寧波市の人材交流会は、高学歴若年層の流入が著しい都市の人材交流会であるにもかかわらず同様の傾向がみられない。3市に就転職機会をを求める高学歴若年層の多くは、市内出身者にしろ、市外出身者にしろ、自身の属性に鑑みて当該人材市場が主催する人材交流会以上に条件のよい就転職活動機会をみいだしにくいと判断して当該人材市場が主催する人材交流会に幾度も足を運んでいると思われる。3市の人材交流会は、前稿(1)(2)で分析の対象とした広州市の人材交流会と同様に位置づけられるだろう。かれらは、就転職機会の獲得に大きな困難がともなうにしても、ひとたび選択した就転職活動拠点を容易には変えない。就転職機会の獲得にともなう高学歴若年層の地域間移動は、出生地・就転職先間の物理的距離とそれに起因する言語や風土、そしてそれらの結果決定される就転職先の同郷者数などの影響をやはり免れることはできないようである。

とすると、現在深刻視されている高学歴若年層の就職難<sup>35</sup>は、三大経済圏単位で改善を試みる以外にない。長江デルタ経済圏の就職難は、長江デルタ経済圏における高学歴若年層の労働需給の一致によって改善されるのであり、環渤海経済圏や珠江デルタ経済圏における高学歴若年層の労働需給の動向に左右される要素は短期的にはほとんどないと思われる。たとえば、不幸にも「蟻族」<sup>36</sup>として認知されるに至った高学歴若年低所得者の一定数は、市外(地方)出身者がほとんどであり、生計費が嵩む大都市で生計を維持していく都合上、大都市郊外の一角を離れられずに暮らしている。かれらのほとんどは、親族の期待と現状との落差に悩んで故郷に戻ることもできない。



## 10. 志望職務

表17は、4市の人材交流会を訪れた求職者の志望職務を示している。

4市の人材交流会のいずれも、市外出身者に占める営業職志望者比率が市内出身者のそれに比較して高い。

上海市と寧波市の人材交流会は、市外出身者に占める男性比率が市内出身者のそれを10ポイント以上上回り、市外出身者に占める営業職志望者比率を市内出身者のそれより5ポイント以上押し上げている。営業職志望者は、前稿(1)で示したように、男性に偏る傾向が強い。上海市と寧波市の人材交流会は、まさにその典型である。

上海市と寧波市の人材交流会は、興味深いことに、女性も市外出身者に占める営業職志望者比率を押し上げている。女性の志望職務は、前稿(2)で示したように、総務職に偏る傾向が強いが、そうした傾向は、上海市と寧波市の人材交流会を訪れた市外出身の女性にはみられない。筆者は、河南省、安徽省、江西省出身者が北京市、上海市、広州市に就転職先を求める場合には志望職務をあらかじめ絞り込んでいる事実を前稿(2)で示したが、上海市の人材交流会を訪れたその他の一級行政区出身者も志望職務をあらかじめ絞り込んでいることを本稿で強調しておきたい<sup>37</sup>。また、寧波市の人材交流会を訪れた市外出身者の1人あたり志望職務数も、市内出身者のそれに比較して少なく、市外出身者が志望職務を絞り込んでいる様子が窺える<sup>38</sup>。筆者は、上海市と寧波市の人材交流会を訪れた市外出身の女性が志望職務を総務職ではなく営業職に絞り込んでいる理由を2市における総務職需給の不一致に求めている。

蘇州市の人材交流会は、市内出身者の男女構成と市外出身者のそれとがほぼ同様であるが、市内出身者に占める営業職志望者比率と市外出身者のそれとの格差が8.8ポイントと最大になる。この理由は、求人内容が理系技術職に偏るゆえに生じる市内出身者と市外出身者の年齢構成の相違に求められよう。蘇州市の人材交流会を訪れた市内出身者は、年齢構成の分析にあたって指摘したように、20歳代後半者比率が78.6%を占めている。筆者は、この点に鑑みて、蘇州工業園区における市内出身者の就転職は中間管理層の職位に就く場合にほぼ限定されるという見通しをすでに述べた。営業職の求人数は、外資企業の工場が集中する蘇州工業園区では極端に少ないと予想され、20歳代前半の市内出身者の多くは、蘇州工業園区を就転職先として考えにくいのであろう。それゆえ、市内出身者の絶対数は、極端に少なくなり、数少ない20歳代前半者のほとんどは、志望職務を理系技術職に絞り込んだ者で構成される結果になる。

また、上海市、南京市、寧波市の人材交流会は、市外出身者に占める理系技術職志望者比率が市内出身者のそれに比較して高い。理工系学科・研究科出身者は、文科系学科・研究科出身者に比較して就職が容易であると中国でもいわれている。それゆえ、理工系学科・研究科出身者は、就転職機会の獲得で文科系学科・研究科出身者よりも優位の立場にあるためにJ. ハリス (Harris, John R.) と M. トダロ (Todaro, Michel P.) のいう移動先での「期待所得」(expected income)<sup>39</sup>が相対的に高くなり、地域間移動を行いやすい一面をもつのだろう。筆者は、地域間移動を行う高学

表 17 志望職務【複数回数】

		上海市					蘇州市																		
		営業職	総務職	文 技 術 職	理 技 術 系	一般職																			
上海市	南京市	479	178	88	57	160	5	451	185	126	67	131	25	100.0%	37.2%	18.4%	11.9%	33.4%	1.0%	100.0%	41.0%	27.9%	14.9%	29.0%	5.5%
		108	35	42	25	24	2	93	37	22	13	22	7	100.0%	32.4%	38.9%	23.1%	22.2%	1.9%	100.0%	39.8%	23.7%	14.0%	23.7%	7.5%
		371	143	46	32	136	3	358	148	104	54	109	18	100.0%	38.5%	12.4%	8.6%	36.1%	0.8%	100.0%	41.3%	29.1%	15.1%	30.4%	5.0%
		303	118	26	24	130	3	244	120	31	24	101	6	100.0%	38.9%	8.6%	7.9%	42.9%	1.0%	100.0%	49.2%	12.7%	9.8%	41.4%	2.5%
		58	20	12	11	19	2	51	24	6	6	18	3	100.0%	34.5%	20.7%	19.0%	32.8%	3.4%	100.0%	47.1%	11.8%	11.8%	35.3%	5.9%
		245	98	14	13	111	1	193	96	25	18	83	3	100.0%	40.0%	5.7%	5.3%	45.3%	0.4%	100.0%	49.7%	13.0%	9.3%	43.0%	1.6%
		176	60	62	33	30	2	207	65	95	43	30	19	100.0%	34.1%	35.2%	18.8%	17.0%	1.1%	100.0%	31.4%	45.9%	20.8%	14.5%	9.2%
		50	15	30	14	5	0	42	13	16	7	4	4	100.0%	30.0%	60.0%	28.0%	10.0%	0.0%	100.0%	31.0%	38.1%	16.7%	9.5%	9.5%
		126	45	32	19	25	2	165	52	79	36	26	15	100.0%	35.7%	25.4%	15.1%	19.8%	1.6%	100.0%	31.5%	47.9%	21.8%	15.8%	9.1%
		187	42	50	17	100	19	333	162	63	34	108	11	100.0%	22.5%	26.7%	9.1%	53.5%	10.2%	100.0%	48.6%	18.9%	10.2%	32.4%	3.3%
蘇州市	寧波市	14	2	3	1	8	2	76	34	29	13	22	1	100.0%	14.3%	21.4%	7.1%	57.1%	14.3%	100.0%	44.7%	38.2%	17.1%	28.9%	1.3%
		173	40	47	16	92	17	257	128	34	21	86	10	100.0%	23.1%	27.2%	9.2%	53.2%	9.8%	100.0%	49.8%	13.2%	8.2%	33.5%	3.9%
		119	23	14	6	82	11	216	108	29	10	93	6	100.0%	19.3%	11.8%	5.0%	68.9%	9.2%	100.0%	50.0%	13.4%	4.6%	43.1%	2.8%
		9	1	1	0	6	1	40	22	5	2	17	0	100.0%	11.1%	11.1%	0.0%	66.7%	11.1%	100.0%	55.0%	12.5%	5.0%	42.5%	0.0%
		110	22	13	6	76	10	176	86	24	8	76	6	100.0%	20.0%	11.8%	5.5%	69.1%	9.1%	100.0%	48.9%	13.0%	4.5%	43.2%	3.4%
		68	19	36	11	18	8	117	54	34	24	15	5	100.0%	27.9%	52.9%	16.2%	26.5%	11.8%	100.0%	46.2%	29.1%	20.5%	12.8%	4.3%
		5	1	2	1	2	1	36	12	15	11	5	1	100.0%	20.0%	40.0%	20.0%	40.0%	20.0%	100.0%	33.3%	41.7%	30.6%	13.9%	2.8%
		63	18	34	10	16	7	81	42	19	13	10	4	100.0%	28.6%	54.0%	15.9%	25.4%	11.1%	100.0%	51.9%	23.5%	16.0%	12.3%	4.9%

歴若年層は、男性が多く、物理的移動距離の平均も、男性が女性に比較して長い、と前稿(1)(2)で述べたが、この事実は、文科系専攻・理工系専攻間の男女構成の不均衡によって助長されている一面をもっていることを本稿で補足しておきたい。

### 11. 希望する待遇(1)月給額①学歴・性別

表 18 は、4 市の人材交流会を訪れた求職者が希望する月給額を学歴・性別に示している。

上海市の人材交流会は、学歴と男女とを問わず、市外出身の大学専科卒者、大学本科卒者、大学院博士前期課程修了者が希望する月給額が市内出身の大学専科卒者、大学本科卒者、大学院博士前期課程修了者のそれに比較してそれぞれ高い。上海市の人材交流会を訪れた市外出身者は、高月給志向が強いといえよう。

南京市、蘇州市、寧波市の人材交流会は、男女合計では市外出身の大学専科卒者と大学本科卒者が希望する月給額が市内出身の大学専科卒者と大学本科卒者のそれにそれぞれほぼ等しい。ただし、この3市の人材交流会は、男女別では市内出身の大学専科卒者と大学本科卒者が希望する月給額と市外出身の大学専科卒者と大学本科卒者のそれとは大きく相違している。男性は、市外出身者が希望する月給額が市内出身者のそれより高く、女性は、市外出身者が希望する月給額が市内出身者のそれより低い傾向がある。筆者は、この原因を高月給志向が強く大都市に就転職機会を求める一群と高月給志向が弱く中小都市に就転職機会を求める一群とへの女性の二極化に求めたい。もちろん、二極化の傾向は、男性にも窺える。しかし、女性の二極化の度合いは、男性のそれとは比較にならないほど顕著である。

### 12. 希望する待遇(1)月給額②年齢・性別

表 19 は、4 市の人材交流会を訪れた求職者が希望する月給額を年齢・性別に示している。

上海市の人材交流会は、市外出身の20歳代前半者と20歳代後半者の希望する月給額が市内出身の20歳代前半者と20歳代後半者のそれに比較してそれぞれ高い。男性は、その傾向がより強い。この理由は、学歴構成の分析にあたって指摘したように、市外出身者の高学歴化の度合いが高いことに求められる。要するに、上海市に就転職機会を求める市外出身者は、学歴が全体的に高くなる分だけ月給額で示される自己評価を高く見積もる者が多いのである。

南京市の人材交流会は、男女合計では市外出身の20歳代前半者と20歳代後半者の希望する月給額が市内出身の20歳代前半者と20歳代後半者のそれと大差ない。この点は、学歴構成の分析にあたって指摘したように、市内出身者と市外出身者の高学歴化の度合いが男女ともほぼ等しいという結果に符合している。

ただし、南京市の人材交流会は、男女別では市内出身の20歳代前半者と20歳代後半者の希望する月給額と市外出身の20歳代前半者と20歳代後半者のそれとは大きく相違している。男性は、市外出身者の希望する月給額が市内出身者のそれより高く、女性は、市外出身者の希望する

表 18 希望する待遇(1)月給額①学歴・性別

	平均額		平均額		平均額		平均額		平均額		
	男性	女性									
上海市	3,389 (464)	3,633 (289)	2,985 (175)	1,808 (205)	2,074 (448)	2,299 (243)	2,365 (187)	2,519 (119)	2,159 (329)	2,285 (215)	1,921 (114)
市内	3,210 (107)	3,572 (571)	2,798 (50)	1,974 (42)	2,078 (92)	2,165 (51)	2,393 (14)	2,422 (9)	2,195 (75)	2,290 (60)	2,086 (35)
市外	3,442 (357)	3,648 (232)	3,059 (125)	1,765 (163)	2,073 (355)	2,334 (192)	2,363 (173)	2,527 (110)	2,148 (254)	2,284 (175)	1,848 (79)
大学専科	3,052 (162)	3,280 (92)	2,753 (70)	1,679 (112)	1,907 (228)	2,127 (116)	2,171 (146)	2,272 (89)	2,035 (214)	2,223 (138)	1,692 (76)
市内	2,903 (46)	3,273 (22)	2,629 (24)	1,805 (22)	1,896 (49)	1,970 (27)	2,211 (9)	2,160 (5)	2,040 (45)	2,309 (22)	1,783 (23)
市外	3,098 (116)	3,283 (70)	2,817 (46)	1,648 (90)	1,909 (170)	2,174 (89)	2,168 (137)	2,279 (84)	1,992 (169)	2,207 (146)	1,653 (53)
大学本科	3,279 (238)	3,479 (155)	2,906 (83)	1,928 (89)	2,200 (206)	2,408 (117)	2,703 (39)	2,771 (28)	2,360 (112)	2,393 (75)	2,292 (37)
市内	3,106 (51)	3,281 (27)	2,908 (24)	2,160 (20)	2,282 (44)	2,383 (24)	2,720 (5)	2,750 (4)	2,317 (29)	2,267 (18)	2,400 (11)
市外	3,327 (187)	3,521 (128)	2,905 (59)	1,861 (69)	2,178 (162)	2,414 (93)	2,700 (34)	2,775 (24)	2,375 (83)	2,433 (57)	2,246 (26)
大学院博士 前期課程	4,521 (62)	4,798 (40)	4,018 (22)	2,750 (4)	2,943 (14)	3,020 (10)	4,000 (1)	4,000 (1)	3,533 (3)	2,500 (2)	5,600 (1)
市内	4,444 (9)	4,714 (7)	3,500 (2)	-	-	-	-	-	5,600 (1)	-	5,600 (1)
市外	4,534 (53)	4,815 (33)	4,070 (20)	2,750 (4)	2,943 (14)	3,020 (10)	4,000 (1)	4,000 (1)	2,500 (2)	2,500 (2)	-
大学院博士 後期課程	8,500 (2)	8,500 (2)	-	-	-	-	16,000 (1)	16,000 (1)	-	-	-
市内	10,000 (1)	10,000 (1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
市外	7,000 (1)	7,000 (1)	-	-	-	-	16,000 (1)	16,000 (1)	-	-	-

注 1. 平均額欄の括弧内の数字は、平均額算出の対象となった回答者数である。

2. 上海市の大学本科卒業欄の全体平均額と男性平均額および大学院博士前後期課程修士欄の全体平均額と男性平均額は、100,000元を希望する回答者をそれぞれ1人ずつ除いた数値である。

表 19 希望する待遇(1)月給額②学歴③性別

	平均額		平均額		平均額		平均額		平均額	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
上海市	3,389 (464)	2,833 (289)	2,985 (175)	2,299 (243)	2,885 (187)	2,519 (119)	2,096 (68)	1,806 (243)	2,159 (329)	1,921 (215)
市内	3,210 (107)	3,572 (57)	2,978 (50)	2,185 (51)	2,974 (93)	2,422 (9)	2,340 (5)	2,086 (40)	2,290 (40)	2,086 (35)
市外	3,442 (357)	3,648 (232)	3,059 (125)	2,334 (192)	1,765 (163)	2,527 (110)	2,076 (63)	1,848 (175)	2,284 (254)	1,848 (79)
15~19歳	2,000 (2)	2,000 (2)	2,000 (2)	2,000 (2)	2,000 (2)	2,000 (2)	2,000 (2)	1,000 (1)	1,000 (1)	1,000 (1)
市内	2,000 (0)	2,000 (0)	2,000 (0)	2,000 (0)	2,000 (0)	2,000 (0)	2,000 (0)	1,000 (0)	1,000 (0)	1,000 (0)
市外	2,000 (2)	2,000 (2)	2,000 (2)	2,000 (2)	2,000 (2)	2,000 (2)	2,000 (2)	1,000 (1)	1,000 (1)	1,000 (1)
20~24歳	2,615 (237)	2,642 (123)	2,585 (112)	1,846 (290)	2,014 (134)	2,120 (60)	1,865 (43)	1,802 (166)	1,717 (196)	1,863 (114)
市内	2,415 (61)	2,292 (24)	2,695 (37)	1,780 (54)	2,083 (26)	2,200 (3)	1,865 (0)	1,883 (46)	1,982 (22)	1,792 (24)
市外	2,684 (176)	2,725 (101)	2,629 (75)	1,861 (236)	2,058 (106)	2,116 (57)	1,865 (43)	1,777 (150)	1,835 (92)	1,686 (58)
25~29歳	3,987 (146)	4,167 (105)	3,561 (41)	2,436 (116)	2,585 (79)	2,712 (37)	2,491 (23)	2,491 (80)	2,500 (100)	2,470 (77)
市内	3,715 (26)	3,750 (16)	3,660 (10)	2,376 (25)	2,492 (13)	2,533 (6)	2,340 (5)	2,445 (11)	2,587 (21)	2,900 (15)
市外	4,058 (120)	4,242 (89)	3,529 (31)	2,453 (91)	2,603 (66)	2,733 (51)	2,533 (18)	2,444 (79)	2,479 (62)	2,318 (17)
30~34歳	4,678 (40)	4,894 (31)	3,933 (9)	2,504 (27)	2,674 (19)	2,100 (8)	2,500 (2)	2,570 (4)	2,967 (18)	2,343 (11)
市内	5,975 (8)	5,975 (8)	5,975 (8)	2,511 (9)	2,333 (6)	2,867 (3)	2,500 (0)	2,240 (5)	2,600 (17)	2,150 (4)
市外	4,353 (22)	4,517 (23)	3,933 (9)	2,500 (18)	2,831 (13)	1,640 (3)	2,500 (2)	3,246 (13)	3,440 (10)	2,600 (3)
35~39歳	6,380 (20)	4,186 (14)	4,388 (6)	2,356 (9)	2,600 (3)	2,350 (4)	2,500 (0)	4,111 (9)	4,125 (8)	4,000 (1)
市内	3,267 (3)	3,400 (2)	3,000 (1)	2,733 (3)	2,600 (2)	3,000 (1)	2,500 (0)	3,300 (2)	2,600 (1)	4,000 (1)
市外	4,376 (17)	4,317 (12)	5,200 (5)	2,467 (6)	2,533 (3)	2,400 (3)	2,500 (0)	4,343 (7)	4,343 (7)	4,000 (0)
40~44歳	5,140 (10)	6,167 (6)	3,900 (4)	4,450 (4)	4,450 (4)	6,000 (1)	2,500 (0)	2,933 (3)	2,933 (3)	2,933 (3)
市内	5,500 (4)	6,000 (3)	4,000 (1)	6,000 (1)	6,000 (1)	6,000 (1)	2,500 (0)	4,000 (1)	4,000 (1)	4,000 (0)
市外	4,900 (6)	6,333 (3)	3,467 (3)	3,933 (3)	3,933 (3)	3,933 (3)	2,500 (0)	2,400 (2)	2,400 (2)	2,400 (0)
45~49歳	4,600 (5)	4,750 (4)	4,000 (1)	1,500 (2)	1,500 (2)	1,500 (2)	2,500 (0)	3,800 (2)	3,800 (2)	3,800 (2)
市内	4,000 (3)	4,000 (2)	4,000 (1)	1,000 (1)	1,000 (1)	1,000 (1)	2,500 (0)	3,800 (2)	3,800 (2)	3,800 (2)
市外	5,500 (2)	5,500 (2)	5,500 (2)	2,000 (1)	2,000 (1)	2,000 (1)	2,500 (0)	3,800 (2)	3,800 (2)	3,800 (2)
50歳~	4,000 (3)	4,000 (3)	4,000 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2,500 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
市内	4,000 (2)	4,000 (2)	4,000 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2,500 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
市外	4,000 (1)	4,000 (1)	4,000 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2,500 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

注 1. 平均額の括弧内の数字は、平均額算出の対象となった回答者数である。  
 2. 上海市の20~24歳層の全体平均額と男性平均額および35~39歳層の全体平均額と男性平均額は、100,000元を希望する回答者をそれぞれ1人ずつ除いた数値である。  
 3. 蘇州市の30~34歳層の全体平均額と男性平均額は、博士後期課程修了の学歴を有する市外出身の男性が16,000元を希望しているために月給額の平均が見掛け上高く算出される。

月給額が市内出身者のそれより低い。この理由は、希望する月給額の学歴・性別の分析にあたって指摘した女性の二極化によると考えるほかあるまい。

蘇州市の人材交流会は、市外出身の20歳代後半者の希望する月給額が市内出身の20歳代後半者のそれに比較して高い。この理由は、学歴構成の分析にあたって指摘したように、市外出身者の高学歴化の度合いはむしろ低くなるので、蘇州工業園區にたいする市外出身者の期待の大きさに求めるべきではないだろうか。蘇州市の人材交流会に就転職機会を求める市外出身者は、大学専科卒者が大宗を占める。かれらは、一般に、雇用条件では高学歴層のうちで最低水準に甘んじざるをえず、外資企業の集積拠点として中国全土に知られている蘇州工業園區での好待遇に期待をかけていると思われる。

残る寧波市の人材交流会は、市外出身の20歳代前半者と20歳代後半者の希望する月給額が市内出身の20歳代前半者と20歳代後半者のそれに比較してそれぞれ低い。この理由は、やはり学歴構成の分析にあたって指摘したように、市外出身者の高学歴化の度合いが低いことに求められる。要するに、寧波市に就転職機会を求める市外出身者は、学歴が全体的に低くなる分だけ月給額で示される自己評価を低く見積もる者が多いのである。ただし、市外出身の30歳代前半者と30歳代後半者の希望する月給額は、市内出身の30歳代前半者と30歳代後半者のそれに比較してそれぞれ高く、とりわけ30歳代後半者は、上海市の30歳代後半者とはほぼ同等の月給額を求めている。寧波市に就転職機会を求める市外出身者も、30歳代になると、子どもの養育費を中心とする生計費の増大もあって20歳代を大きく上回る月給額を求めるようになると思われる。

### 13. 希望する待遇(1)月給額③志望職務【複数回答】・性別

表20は、4市の人材交流会を訪れた求職者が希望する月給額を志望職務・性別に示している。

上海市の人材交流会は、志望職務と男女とを問わず、市外出身者の希望する月給額が市内出身者のそれに比較して高い。この理由は、くり返し指摘したように、上海市に就転職機会を求める市外出身者は高学歴化の度合いが市内出身者に比較して高く、かれらが学歴に応じた雇用条件を希望していることに求められよう。

南京市の人材交流会は、市外出身の男性に占める文系技術職志望者の希望する月給額が市内出身の男性のそれに比較して低く、市外出身の男性に占める総務職志望者と理系技術職志望者の希望する月給額が市内出身の男性のそれに比較してそれぞれ高い。この理由は、市内出身の男性に占める文系技術職志望者の希望する月給額が同様に市内出身の男性に占める総務職志望者と理系技術職志望者の希望する月給額よりも400元程度も高いためである。市内出身の男性は、文系技術職が総務職と理系技術職よりも高月給をうる職務であると認識しているように見受けられるが、その理由は、南京市の労働需給を反映したものであるとしか考えにくい。

さらに、南京市の人材交流会は、市外出身の女性に占める営業職志望者と総務職志望者の希望

表 20 希望する待遇(1)月給額③志望職務【複数回答】・性別

	平均額		平均額		平均額		平均額		平均額	
	男性	女性								
上海市	3,389 (464)	2,985 (175)	2,074 (448)	1,808 (205)	2,365 (187)	2,096 (68)	2,159 (329)	1,921 (114)	2,285 (215)	1,987 (114)
南京市	3,633 (289)	2,985 (175)	2,074 (448)	1,808 (205)	2,365 (187)	2,096 (68)	2,159 (329)	1,921 (114)	2,285 (215)	1,987 (114)
苏州市	3,210 (107)	3,572 (50)	2,078 (93)	1,974 (42)	2,393 (14)	2,422 (9)	2,195 (75)	2,086 (35)	2,290 (40)	2,086 (35)
无锡市	3,442 (357)	3,648 (232)	2,073 (355)	1,765 (163)	2,363 (173)	2,527 (110)	2,148 (254)	1,848 (175)	2,284 (175)	1,848 (79)
宁波市	3,374 (170)	3,477 (110)	2,213 (184)	1,851 (65)	2,719 (42)	3,078 (23)	2,023 (160)	1,853 (53)	2,107 (107)	1,853 (53)
嘉兴市	3,274 (34)	3,405 (19)	2,273 (37)	1,962 (13)	3,100 (2)	4,000 (1)	2,035 (34)	1,817 (12)	2,155 (22)	1,817 (12)
绍兴市	3,399 (136)	3,492 (91)	2,197 (147)	1,823 (52)	2,700 (40)	3,036 (22)	2,019 (126)	1,863 (41)	2,094 (85)	1,863 (41)
温州市	2,790 (88)	2,792 (26)	1,905 (126)	1,754 (95)	2,044 (50)	2,429 (14)	1,810 (62)	1,733 (29)	1,897 (29)	1,733 (33)
金华市	2,698 (42)	2,600 (12)	1,886 (22)	1,856 (16)	2,067 (3)	2,200 (11)	1,884 (19)	1,800 (14)	2,120 (5)	1,800 (14)
衢州市	2,874 (46)	2,957 (14)	1,909 (104)	1,733 (79)	2,043 (47)	2,446 (13)	1,777 (43)	1,684 (19)	1,850 (24)	1,684 (19)
台州市	3,230 (57)	3,804 (24)	1,948 (65)	1,712 (41)	2,365 (17)	2,567 (6)	2,212 (34)	2,200 (24)	2,240 (10)	2,200 (24)
丽水市	3,028 (25)	3,682 (11)	2,000 (13)	1,629 (7)	1,400 (1)	-	2,415 (13)	2,400 (11)	2,500 (2)	2,400 (11)
温州市	3,388 (32)	3,908 (13)	1,935 (52)	1,729 (34)	2,425 (16)	2,567 (6)	2,086 (21)	2,031 (13)	2,175 (8)	2,031 (13)
嘉兴市	3,660 (154)	3,746 (125)	2,154 (131)	1,800 (30)	2,261 (100)	2,288 (82)	2,215 (107)	1,987 (15)	2,252 (92)	1,987 (15)
绍兴市	3,408 (24)	3,442 (19)	1,909 (22)	1,450 (4)	2,063 (8)	1,833 (2)	2,382 (22)	2,360 (5)	2,388 (17)	2,360 (5)
宁波市	3,707 (130)	3,801 (106)	2,204 (109)	1,854 (26)	2,278 (32)	2,324 (76)	2,172 (85)	1,800 (10)	2,221 (75)	1,800 (10)
温州市	2,600 (5)	2,667 (3)	1,884 (25)	1,484 (19)	1,905 (19)	2,073 (11)	1,800 (11)	1,720 (5)	1,860 (6)	1,720 (5)
嘉兴市	2,000 (2)	2,000 (0)	1,343 (7)	1,150 (4)	1,700 (2)	2,000 (1)	3,000 (1)	3,000 (1)	3,000 (0)	3,000 (1)
绍兴市	3,000 (3)	4,000 (1)	1,678 (18)	1,573 (15)	1,929 (17)	2,080 (10)	1,680 (10)	1,400 (6)	1,860 (6)	1,400 (6)

注 1. 平均額欄の括弧内の数字は、平均額算出の対象となった回答者数である。  
 2. 上海市の営業職欄の全体平均額と男性平均額と女性平均額は、100,000円を希望する回答者を2人除いた数値である。

する月給額が市内出身の女性のそれに比較してそれぞれ低く、文系技術職志望者と総務職志望者の希望する月給額が市内出身の女性のそれに比較してそれぞれ高い。この理由は、市内出身の女性に占める営業職志望者と総務職志望者の希望する月給額が同様に市内出身の女性に占める文系技術職志望者と理系技術職志望者の希望する月給額よりも300~500元程度も高いためである。市内出身の女性は、営業職と総務職が文系技術職と理系技術職よりも高月給をうる職務であると認識しているように見受けられるが、その理由も、男性の結果と同様に、南京市の労働需給を反映したものであるとしか考えにくい。

蘇州市の人材交流会は、標本誤差が大きい可能性は否めないとはいえ、市外出身の男性に占める理系技術職志望者の希望する月給額が市内出身者のそれに比較して高いといえよう。この理由は、先述したように、外資企業の集積拠点として中国全土に知られている蘇州工業園區での好待遇にたいする市外出身者の期待の大きさに求められよう。

寧波市の人材交流会は、男女を問わず、市外出身者に占める総務職志望者、文系技術職志望者、理系技術職志望者の希望する月給額が市内出身者のそれに比較してそれぞれ低い。この理由は、やはりくり返し指摘したように、寧波市に就転職機会を求める市外出身者は高学歴化の度合いが市内出身者に比較して低く、かれらが学歴に応じた雇用条件を希望していることに求められよう。

#### 14. 希望する待遇(2) 社会保険等

表21は、4市の人材交流会を訪れた求職者の社会保険等の必要性に関する認識を示している。

上海市、蘇州市、寧波市の人材交流会は、市外出身者に占める社会保険<sup>40</sup>等不要者比率が市内出身者のそれに比較して高く、南京市の人材交流会は、市外出身者に占める社会保険等不要者比率が市内出身者のそれと大差ない。

上海市、蘇州市、寧波市の人材交流会で市外出身者に占める社会保険等不要者比率が市内出身者のそれに比較して高くなった理由は、かれらが雇用条件を検討することよりも就業機会それ自体の獲得を優先しているためであろう。上海市、蘇州市、寧波市の人材交流会を訪れた市外出身者は、雇用条件に注文をつける余裕に乏しいと考えられる。筆者は、中国全体でみた場合、社会保険等不要者は主たる所得者としての役割を期待される男性が女性に比較して多いと前稿(1)で述べたが、就転職機会の獲得をめぐる競争が熾烈な都市では女性も男性と同様の状態におかれていることをここで指摘しておきたい。

南京市の人材交流会で市外出身者に占める社会保険等不要者比率が市内出身者のそれと大差なかった理由は、男女構成の分析にあたって指摘したように、江蘇省出身者が67.4%を占めており、前稿(2)で指摘した戸籍所在地の相違がもたらす求職者の就転職活動上の不利益が比較的小さいことに求められよう。

表 21 人材流出都市・希望する待遇(2)社会保険等

	全回答者				全回答者				
		必要	不要			必要	不要		
上海市	479			南京市	451				
	100.0%				100.0%				
	市内	108			市内	93			
		100.0%				100.0%			
	市外	371			市外	358			
		100.0%				100.0%			
	男性	303			男性	244			
		100.0%				100.0%			
		市内	58			市内	51		
			100.0%				100.0%		
市外	245		市外	193					
	100.0%			100.0%					
女性	176		女性	207					
	100.0%			100.0%					
	市内	50		市内	42				
		100.0%			100.0%				
市外	126		市外	165					
	100.0%			100.0%					
全回答者			全回答者						
必要			必要						
不要			不要						
蘇州市	187			寧波市	333				
	100.0%				100.0%				
	市内	14			市内	76			
		100.0%				100.0%			
	市外	173			市外	257			
		100.0%				100.0%			
	男性	119			男性	216			
		100.0%				100.0%			
		市内	9			市内	40		
			100.0%				100.0%		
市外	110		市外	176					
	100.0%			100.0%					
女性	68		女性	117					
	100.0%			100.0%					
	市内	5		市内	36				
		100.0%			100.0%				
市外	63		市外	81					
	100.0%			100.0%					

## おわりに

最後に、本稿で試みた就転職機会の獲得にもなって長江デルタ経済圏へ地域間移動を行う高学歴若年層の属性を要約し、前稿(2)では指摘できなかった中国全土に共通する高学歴若年層の労働供給の特徴を提起しておきたい。

第一に、高学歴若年層は、近隣に高い生活水準を保障されている都市が存在する場合でも、出生地で一定程度の生活水準が保障されると、就転職機会の獲得にもなって地域間移動を行う誘因が大きく低下する。高学歴若年層の地域間移動は、プル要因よりもプッシュ要因に強く支配されている。

第二に、高学歴若年層は、第一で言及した生活水準が出生地で保障されないと、平均月給額、平均可処分所得、平均消費支出などの経済的指標で計られる生活水準が高い都市に就転職機会を求めて地域間移動を行う。

第三に、高学歴若年層は、第二で言及した地域間移動を行う場合、とりわけ上海市と蘇州市の人材交流会を訪れた求職者の属性から窺えるように、求人の内容と学歴や専攻を中心とする自身の属性に鑑みて相応しい都市を相当程度合理的に選択している。

第四に、就転職機会の獲得にともなう高学歴若年層の地域間移動は、大都市に就転職機会を求める高学歴層の高学歴化の度合いを上昇させる。大学本科卒者や大学院修了者の一部の月給額は、市外出身の高学歴層を大都市に引き寄せる呼び水となり、大都市に就転職機会を求める高学歴若年層の高学歴化の度合いをより一層上昇させる要因となっている。

第五に、就転職機会の獲得にともなう高学歴若年層の地域間移動は、第二、第三、第四で指摘した特徴をもつが、出生地・就転職先間の物理的距離とそれに起因する言語や風土、そしてそれらの結果決定される就転職先の同郷者数などの影響を免れることはできない。したがって、現在深刻視されている高学歴若年層の就職難は、三大経済圏単位で改善を試みる以外にない。

第六に、就転職機会の獲得にともなう地域間移動を行う高学歴若年層は、男性比率が高く、物理的移動距離の平均も、男性が女性に比較して長い。この現象は、文科系専攻・理工系専攻間の男女構成の不均衡によって助長されている一面をもつ。

第七に、女性の高学歴若年層は、高月給志向が強く大都市に就転職機会を求める一群と高月給志向が弱く中小都市に就転職機会を求める一群とへ二極化する傾向が男性の高学歴若年層よりも強い。

第八に、社会保険等不要者比率は、就転職機会の獲得をめぐる競争が熾烈な大都市では女性も男性と同様に高くなる。

筆者は、前稿(1)(2)および本稿で現代中国における高学歴若年層の就転職事情に迫った。分析すべき事柄は、詳細を追えば多々残っているが、この課題の追究は、本稿でひとまず区切りをつけることにしたい。未解明の実態は、前稿(1)で述べたように、可能であればアンケート調査時点から5年後(2012年)あるいは10年後(2017年)に実施する予定である同様のアンケート調査の結果を報告するさいに併せて言及したいと考えている。

## 注

- 1 柳澤和也「現代中国における高学歴若年層の就転職事情(1)——人材交流会求職者にたいするアンケート調査の比較分析を通じて」神奈川大学経済学会『商経論叢』第43巻第3・4合併号, 2008年3月, 55~113頁。
- 2 柳澤和也「現代中国における高学歴若年層の就転職事情(2)——就転職機会の獲得にともなう高学歴若年層の地域間移動(1)」神奈川大学経済学会『商経論叢』第44巻第3・4合併号, 2009年5月, 45~92頁。

## 3 中華人民共和国内人事「人材市場管理規定」(2001年9月11日施行)第4条。

ここでいう地方政府とは、一級(省級)行政区に相当する直轄市・省・自治区、二級(地級)行政区に相当する地級市・地区・自治州・盟、三級(県級)行政区に相当する市轄区・県級市・県・自治県・旗・自治旗・特区・林区の行政を分掌する政府を指す。四級(郷級)行政区に相当する区公所・鎮・郷・蘇木・民族郷・民族蘇木・街道の行政を分掌する政府は、人材交流会を主催する権限をもたない。

## 4 2008年3月に開催された第11期全国人民代表大会は、「大部門制」の確立をめざして国务院の機構改革を決定した。その結果、旧人事部は、旧労働・社会保障部と統合され、人力資源・社会保障部に再編された。人材市場は、人事部と労働・社会保障部が人力資源・社会保障部に統合されたことを受けて、旧労働・社会保障部傘下の公的機関である「労働力市場」(「労働力市場」は、非高学歴者を対象にする公共職業安定所に相当し、英語名称は、Labour Marketである。)とともに「人力資源市場」を構成する一翼という位置づけがなされるようになった。

## 5 日野みどり『現代中国の「人材市場」』創土社、2004年。

日野は、人材市場の形成過程と業務の詳細を文献(電子媒体を含む)調査と現地調査に基づいてまとめており、人材交流会の現状と課題も詳述している。

なお、人材市場は、現在の中国では一般に「人才市場」と表記している。日本語と同様の「人材市場」という表記も、少数とはいえ存在するが(両表記のあいだに概念上の相違はない)、すでに日野〔2004〕が詳述しているように、改革・開放政策への転換以降は「人才市場」に事実上一本化されているといえよう。本稿は、日本語論文であるために、固有名である機関の名称を除いて人材市場と表記する。

## 6 本稿でいう長江デルタ経済圏とは、長江デルタ都市経済協定会加入都市で構成される経済圏を意味し、地理上の長江デルタ(通揚運河以南、杭州湾北岸以北、鎮江市・揚州市以西の江蘇省南東部、上海市、浙江省北部)に位置する都市のみで構成される経済圏を意味しない。

上海市、南京市、揚州市、鎮江市、南通市、泰州市、蘇州市、無錫市、常州市、杭州市、嘉興市、湖州市、寧波市、紹興市、舟山市の15都市は、1992年、経済協力を目的とする長江デルタ15都市協作部門主任聯席会議を設け、5年後(1997年)、これを長江デルタ都市経済協定会に昇格させた。長江デルタ都市経済協定会は、2003年、台州市の新規加入を承認した。

## 7 筆者たちは、常州市の人材交流会でもアンケート調査を実施している。常州市も、長江デルタ経済圏を構成する都市であるが、出身地の記載漏れが多いため本稿では利用しない。

## 8 筆者たちが実施したアンケート調査は、就学や婚姻の結果として出生地でない二(一)級行政区に就転職機会を求める者および幼少時の挙家移動の結果として出生地でない二(一)級行政区に就転職機会を求める者と賃金水準や失業率などの就業条件の相違を背景にして出生地でない二(一)級行政区に就転職機会を求める者とを弁別できるように設計されていない。

## 9 「大学専科」は、日本の短期大学に相当し、卒業資格として学位を授与できない。

## 10 35歳以上になる高学歴非若年層の人数(比率)は、上海市の人材交流会41人(8.6%)、南京市の人材交流会15人(3.3%)、蘇州市の人材交流会0人(0.0%)、寧波市の人材交流会14人(4.2%)である。

## 11 蘇州市統計局『蘇州統計年鑑』(2008年版)中国統計出版社、2008年、311頁。

## 12 国土資源部土地利用管理司・中国土地勘测規画院「2008年長江三角洲地区城市地価動態監測報告」『中国城市地価状況』(2008年版)地質出版社、2009年、27~34頁。

2008年の4市の1平方メートルあたり総合(居住区・商業区・工業区)地価は、上海市8156元、南京市5389元、寧波市4035元である。蘇州市のそれは、正確な数字は記載されていないが、本報告の図2-2-1から判断すると、2000元程度である。

住宅価格は、地価と乖離する年も多々みられるが、長期的には概ね地価に連動しており、住宅ローン残高や賃料も、地価に応じて決まると考えて差し支えないだろう。

## 13 書籍および音楽・映像ソフト発行数やインターネット接続サービス施設数などは、高学歴若年層の生活水準を左右する重要な指標であるが、資料の制約があり、比較検討できない。

## 14 牧野篤『中国変動社会の教育——流動化する個人と市場主義の対応』勁草書房、2006年、29,186頁。

上海市では、「多くの子どもたちは普通科への進学を希望している」が、「生徒募集計画の問題もあり、普通科の定員を増やしてはいるものの、職業科への不本意入学となる子どもも少なくな」い。「このような状況を背景に、上海市内のいくつかの区では、区教育局に管轄権のある成人教育体系を利用して、職業高級中学〔職業高等学校——筆者〕に進学した生徒で大学進学を希望する者に対して、成人高等教育の機会を開き、学位と学歴を保障するバイパスをつくるところが現れている。」

また、「転職や失業が常態化するなかで、新たな学歴やより高度な学歴を求める人々が急増しており、それがリカレント教育の都市部における急速な普及として現れている」。

改革・開放政策は、以上の牧野の指摘のように、学校教育制度の変容に加え、学校教育制度とは異なる体系をもつ成人教育制度の変容をも促した。人材交流会を訪れる求職者も、当然、成人高等教育機関に学んだ者（既卒者）と学んでいる者（在学学生）を含む。

- 15 杭州市統計局『杭州統計年鑑』（2008年版）中国統計出版社，2008年，50，338頁。  
浙江省の省都である杭州市の戸籍人口100万人あたり学校数（2007年）は，5.4校である。
- 16 武漢市統計局『武漢統計年鑑』（2008年版）中国統計出版社，2008年，39，295頁。  
湖北省の省都である武漢市の戸籍人口100万人あたり学校数（2007年）は，6.6校であり，南京市のそれとまったく同じである。
- 17 広州市統計局・国家統計局広州調査隊『広州統計年鑑』（2008年版）中国統計出版社，2008年，60，569～570頁。  
広州市の戸籍人口100万人あたり学校数（2007年）は，9.9校である。
- 18 杭州市統計局『杭州統計年鑑』（2008年版）中国統計出版社，2008年，50，344～345頁。  
杭州市の戸籍人口100万人あたり在学学生数（2007年）は，5万4460人である。
- 19 武漢市統計局『武漢統計年鑑』（2008年版）中国統計出版社，2008年，39，295頁。  
武漢市の戸籍人口100万人あたり在学学生数（2007年）は，9万3982人である。
- 20 広州市統計局・国家統計局広州調査隊『広州統計年鑑』（2008年版）中国統計出版社，2008年，60，569～570頁。  
広州市の戸籍人口100万人あたり在学学生数（2007年）は，10万7908人である。
- 21 天津市統計局『天津統計年鑑』（2008年版）中国統計出版社，2008年，80，384頁。
- 22 北京市統計局・国家統計局北京調査総隊『北京統計年鑑』（2008年版）中国統計出版社，2008年，77，351～352頁。
- 23 重慶市統計局『重慶統計年鑑』（2008年版）中国統計出版社，2008年，61，389頁。
- 24 北京市統計局・国家統計局北京調査総隊『北京統計年鑑』（2008年版）中国統計出版社，2008年，53頁。
- 25 天津市統計局『天津統計年鑑』（2008年版）中国統計出版社，2008年，60頁。
- 26 重慶市統計局『重慶統計年鑑』（2008年版）中国統計出版社，2008年，39～40頁。
- 27 天津市統計局『天津統計年鑑』（2008年版）中国統計出版社，2008年，80，384頁。
- 28 北京市統計局・国家統計局北京調査総隊『北京統計年鑑』（2008年版）中国統計出版社，2008年，77，351～352頁。
- 29 重慶市統計局『重慶統計年鑑』（2008年版）中国統計出版社，2008年，61，389頁。
- 30 国务院人口普查辦公室・国家統計局人口和社会科技統計司編『中国2000年人口普查資料』（上册）中国統計出版社，2002年，593～602頁。  
筆者は，2000年に実施された第5回人口センサスで15～29歳に区分された世代のなかから高等教育機関就学者だけをとりだして以上の比率を求めた。かれらは，単純計算では，2005年時点で20～34歳になっている。
- 31 国家統計局城市社会経済調査司『中国城市統計年鑑』（2008年版）中国統計出版社，2009年，145～152頁。

徐州市，塩城市，南通市が位置する長江以北の江蘇省（蘇北）は，歴史的に，長江以南の江蘇省（蘇

- 南)に比較して生活水準が低い。戸籍人口1人あたりGDP(2007年)は、徐州市1万7909元、塩城市1万6987元、南通市1万7909元である。
- 32 上海市の人材交流会を訪れた市内出身の非若年層は、12人、市内出身者の11.1%に相当し、最年長者は、64歳である。南京市の人材交流会を訪れた市内出身の非若年層は、5人、市内出身者の5.4%に相当し、最年長者は、45歳である。
- 33 上海市に転職機会を求める在職者の平均年齢は、27.7歳(182人)、うち市内出身者29.0歳(40人)、市外出身者27.4歳(142人)であり、南京市に転職機会を求める在職者の平均年齢の25.7歳(147人)、うち市内出身者26.2歳(38人)、市外出身者25.5歳(109人)、蘇州市に転職機会を求める在職者の平均年齢の24.5歳(58人)、うち市内出身者26.2歳(6人)、市外出身者24.3歳(52人)、寧波市に転職機会を求める在職者の平均年齢の25.8歳(97人)、うち市内出身者25.9歳(21人)、市外出身者25.8歳(76人)より2~3歳高い。
- 34 筆者たちは、前章でも触れたように、蘇州市では、蘇州工業園区に位置する蘇州工業園区人力資源市場が主催する人材交流会でアンケート調査を実施した。蘇州工業園区人力資源市場は、蘇州工業園区政府が運営しており、前稿(1)の表2に示したように、人材市場と労働力市場の機能を併せもっている。蘇州市の人材交流会で高卒者・中等専門学校卒者が多かった理由は、蘇州工業園区に外資企業の工業団地が集中しており、非高学歴層を対象にした招聘会が別の曜日に開催されているためであろう。筆者は、蘇州工業園区に並ぶ開発区である蘇州高新技术開発区政府傘下の人材市場が主催する人材交流会でも同様の属性をもった求職者が集まっていると認識しているが、市街区に立地する蘇州人才市場が主催している人材交流会を訪れる求職者の属性は、推測しようがない。蘇州人才市場は、筆者たちの問い合わせにたいして以前に自ら実施した回収率が極端に悪く標本誤差も著しかったというアンケート調査の結果を探してくれたが、残念ながらみつけれなかった。
- 35 『法制晩報』2009年9月3日。  
麦可思人力资源信息管理咨询公司(MyCOS)によると、2009年8月末当時の大学新卒者(2009年6月卒業)の就職率は、57%である。
- 36 廉思編『蟻族——大学卒業生聚居村実録』広西師範大学出版社、2009年。  
「蟻族」とは、2007年8月、「向下的青春」(下降する青春)と題する『中国新聞週刊』第334号に掲載された北京市海淀区唐家嶺に集住する若年層の報道記事を契機にして、廉思を中心とするグループによって実態調査がすすめられることになった農民、出稼ぎ労働者、レイオフ労働者に次ぐ第四の社会的弱者集団をいう。廉思によると、かれらは、高学歴(大学本科・大学専科卒業)であるにもかかわらず非正規就業を余儀なくされ、その結果、社会保険の対象からも外れて月々2000元未満の低所得に甘んじざるをえず、北京市、上海市、武漢市、広州市、西安市などの大都市で生活費を切りつめるために住居費の安い郊外の一角に集住している。廉思は、高学歴、低所得、集住的生活の3条件を満たす20歳代の若者を「蟻族」と名づけた。
- 37 上海市の人材交流会を訪れた1人あたり志望職務数は、市内出身者1.185、市外出身者0.970、男性では市内出身者1.103、市外出身者0.967、女性では市内出身者1.103、市外出身者0.967であった。
- 38 寧波市の人材交流会を訪れた1人あたり志望職務数は、市内出身者1.303、市外出身者1.086、男性では市内出身者1.150、市外出身者1.136、女性では市内出身者1.122、市外出身者1.086であった。
- 39 Harris, John R. and Michel P. Todaro, "Migration, Unemployment and Development: A Two-sector Analysis" in *American Economic Review*, Vol. 60 No. 1, March 1970.
- 40 「中華人民共和国労働契約法」(2008年1月1日施行)第17条。  
社会保険への加入義務は、同法の施行によって使用者・労働者双方とも強化された。使用者と労働者は、労働契約書を作成するにあたって社会保険への加入を明記するとともに、社会保険料を負担するように定められている。  
ちなみに、中国都市部でいう社会保険は、「養老保険」、「医療保険」、「失業保険」(雇用保険)、「工傷保険」(労働災害保険)、「生育保険」(出産育児保険)を指す。「養老保険」、「医療保険」、「失業保険」、「工

傷保険」,「生育保険」は,「五金」あるいは「五險」と表現される場合が多く,「養老保険」,「医療保険」,「失業保険」だけで「三金」あるいは「三險」と表現されることもある。

なお,本稿で利用した4市のアンケート調査は,いずれも「労働契約法」施行以前に実施された。